

# 広島県内の主要産業の動向（2025年7月）

2025年7月

株式会社ひろぎんホールディングス  
経済産業調査部

|                  |          |
|------------------|----------|
| サマリー（県内主要産業の見通し） | P. 2     |
| 1. 自動車           | P. 3-4   |
| 2. 自動車部品         | P. 5-6   |
| 3. 造船            | P. 7-8   |
| 4. 一般機械          | P. 9-10  |
| 5. 電子部品・デバイス     | P. 11-12 |
| 6. 鉄鋼            | P. 13-14 |
| 7. 大型小売          | P. 15-16 |
| 8. ホテル           | P. 17-18 |
| 9. 建築・土木         | P. 19-20 |
| 10. 住宅・マンション     | P. 21-22 |
| 11. 陸運           | P. 23-24 |
| 12. 海運           | P. 25-26 |

# サマリー [広島県内の主要産業の動向 (2025年7月) ]

## 製造業

| 業種 |           | 最近<br>(25年上)                                                                        | 今後<br>(25年下)                                                                        | 当面の見通し                                |
|----|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------|
| 1  | 自動車       |    |    | 主力の米国販売が関税影響により弱含む公算が大きく、当面低調に推移      |
| 2  | 自動車部品     |    |    | 自動車メーカーの国内生産が当面弱含む中で、受注・生産は低調に推移      |
| 3  | 造船        |    |    | 高水準の手持ち工事を背景に高操業が続く                   |
| 4  | 一般機械      |    |    | 輸出の伸び悩みや自動車産業の投資抑制の動きなどを受け、弱い動きが続く    |
| 5  | 電子部品・デバイス |   |   | 県内で積極的な増産投資が進められており、生産は拡大基調が続く        |
| 6  | 鉄鋼        |  |  | 需要の弱さに加えて生産能力縮小の動きが本格化することもあり、減少基調が続く |

## 非製造業

| 業種 |          | 最近<br>(25年上)                                                                          | 今後<br>(25年下)                                                                          | 当面の見通し                                  |
|----|----------|---------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|
| 7  | 大型小売     |    |    | 物価上昇が続く中で消費マインドの目に見えた改善は見込み難く、全体として伸び悩む |
| 8  | ホテル      |    |    | 外国人客の堅調から宿泊料金の上昇が続き、全体では堅調に推移           |
| 9  | 建築・土木    |    |    | 安定的な需要を背景とした採算重視の受注姿勢の中で、業績は総じて堅調が続く    |
| 10 | 住宅・マンション |    |    | 主力の新築住宅（戸建て・建売）を中心に減少基調が続く              |
| 11 | 陸運       |   |   | コスト増加に見合った十分な価格転嫁は難しく、業績改善には時間を要する      |
| 12 | 海運       |  |  | 用船料が高水準で推移する中で円安基調の追い風も受け、好業績を維持する      |

### 天気図

好調



不調

# 1. 自動車

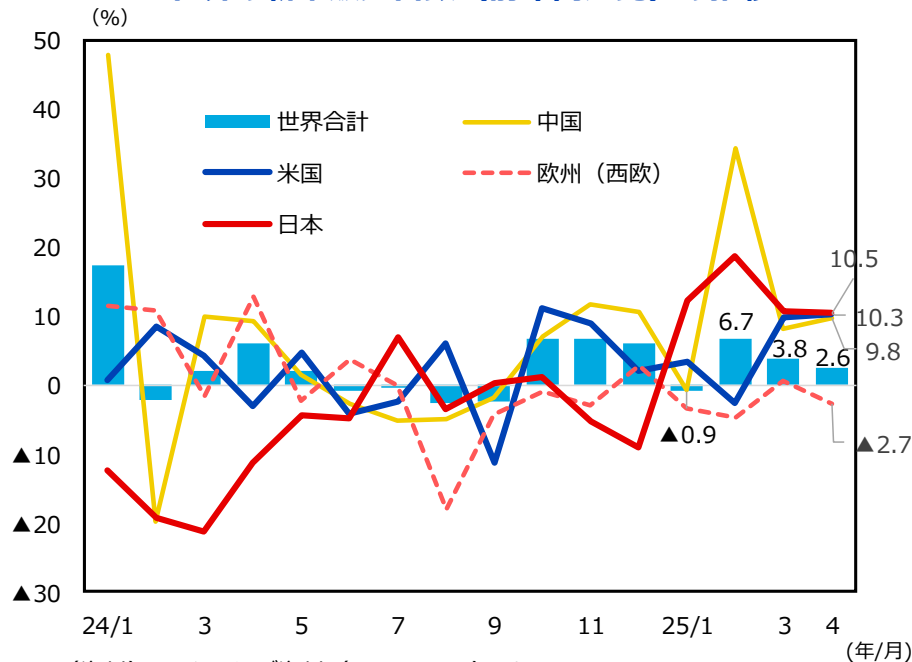


## 最近の動き（2025年上期）



- 世界の新車販売台数は2024年10月以降、増加基調を辿っている。足下では、中国および米国は堅調な一方、欧州は弱い動きが続いている。日本は不正認証問題により販売が落ち込んだ反動から前年を大きく上回って推移している。
- こうした中、2025年上期（1～5月）のマツダのグローバル販売台数は107千台/月（前年同期比+4.3%）と、前年を上回った。主力市場の米国で関税引き上げ前の駆け込み需要も一部でみられ、主力モデルの「CX-50」、「CX-90」を中心に販売台数を伸ばした。
- 一方、グローバル生産台数（同）は96千台/月（同▲2.3%）と前年を下回った。特に国内生産は58千台/月（同▲4.6%）と、2025年4月に発動された米国自動車関税（従来の2.5%に加えて25%の追加関税を賦課）の影響を見据えた輸出の減少もあり、低迷が続いた。
- 2024年度の業績（次ページ左表）は、売上高は北米市場での販売拡大を主因に過去最高の5兆円（前年度比+4.0%）に達したが、営業利益は販売奨励金等の増加から1,861億円（同▲25.7%）の2桁減益となった。

### 世界の新車販売台数（前年同月比）の推移



### マツダのグローバル生産・販売台数（月平均）の推移

(千台、%)

|       |    | グローバル販売 |           | グローバル生産 |           |          |           |
|-------|----|---------|-----------|---------|-----------|----------|-----------|
|       |    |         | 前年<br>同期比 |         | 前年<br>同期比 | うち<br>国内 | 前年<br>同期比 |
| 2021年 | 上期 | 118     | 27.5      | 100     | 23.5      | 70       | 43.3      |
|       | 下期 | 96      | ▲15.8     | 79      | ▲31.3     | 53       | ▲30.3     |
| 22年   | 上期 | 92      | ▲22.1     | 82      | ▲18.3     | 55       | ▲20.7     |
|       | 下期 | 94      | ▲2.6      | 100     | 26.9      | 67       | 27.1      |
| 23年   | 上期 | 104     | 12.5      | 102     | 23.9      | 69       | 25.2      |
|       | 下期 | 103     | 10.5      | 107     | 7.4       | 71       | 5.1       |
| 24年   | 上期 | 103     | ▲0.5      | 99      | ▲2.9      | 61       | ▲11.4     |
|       | 下期 | 109     | 5.8       | 102     | ▲5.4      | 63       | ▲10.0     |
| 25年   | 上期 | 107     | 4.3       | 96      | ▲2.3      | 58       | ▲4.6      |

(注) 2025年上期は1～5月  
(資料) マツダ(株)資料より当部作成

# 1. 自動車（見通し）

## 今後の見通し（2025年下期）



- マツダのグローバル販売は、主力の米国販売が関税影響により弱含む公算が大きく、当面低調に推移する見通し。
- このため、国内生産は減少傾向が続くとみられるが、2025年内には主力車種「CX-5」のモデルチェンジが予定されており、生産は年後半にかけて回復に向かうと期待される。
- 業績は、米国関税に伴う販売台数の減少およびコスト増加が予想されることから、当面は低調に推移するとみられる。

### マツダの2024年度の業績

（億円、千台、円、％）

|        |        | 2024年度業績 |       |
|--------|--------|----------|-------|
|        |        | 前年度差     | 前年度比  |
| 売上高    | 50,189 | ▲1,912   | 4.0   |
| 営業利益   | 1,861  | ▲644     | ▲25.7 |
| 当期純利益  | 1,141  | ▲936     | ▲45.1 |
| 世界販売台数 | 1,303  | 62       | 5.0   |
| 日本     | 152    | ▲8       | ▲5.2  |
| 北米     | 617    | ▲103     | 20.0  |
| 欧州     | 174    | ▲6       | ▲3.4  |
| 中国     | 74     | ▲23      | ▲23.1 |
| その他    | 286    | ▲4       | ▲1.4  |
| 為替レート  | 対USD   | 153      | 8     |
|        | 対EUR   | 164      | 7     |

（注）2025年度業績見通しは未公表  
（資料）マツダ(株)資料より当部作成

## 業界トピックス

### 米国関税の業績への影響

- マツダは、2025年4月より適用された25%の米国自動車関税に伴う影響額を4月単月で90～100億円と示した。
- 7月には税率は15%に引き下げられることが日米で合意されたが、2024年度まで2.5%であったことを勘案すれば業績へのマイナス影響は大きいとみられ、販売価格への転嫁やコスト低減、国内を含む他市場での拡販など、今後の対応が注目される。

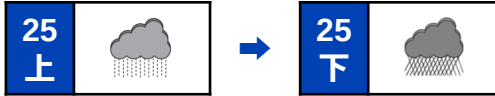
### 米国関税による業績への影響（25%適用の場合）

（億円、千台）

| メーカー   | 関税により想定される影響<br>（25%適用の場合） |               | 【参考】                      |                |
|--------|----------------------------|---------------|---------------------------|----------------|
|        | 金額                         | 対象期間          | 2024年度<br>米国販売台数<br>（構成比） | 2024年度<br>営業利益 |
| トヨタ    | 1,800                      | 2か月<br>（4-5月） | 2,345<br>（21.3%）          | 47,955         |
| ホンダ    | 6,500                      | 通年            | 1,442<br>（38.9%）          | 12,134         |
| 日産     | 4,500                      | 通年            | 938<br>（28.0%）            | 698            |
| スズキ    | 200                        | 通年            | -                         | 6,429          |
| マツダ    | 90～100                     | 1か月<br>（4月）   | 435<br>（33.4%）            | 1,861          |
| SUBARU | 25億ドル<br>（約3,600億円）        | 通年            | 662<br>（70.7%）            | 4,053          |
| 三菱自工   | 400                        | 通年            | 113<br>（13.4%）            | 1,388          |

（資料）各社資料、マークラインズ資料（2025.5.30）より当部作成

## 2. 自動車部品

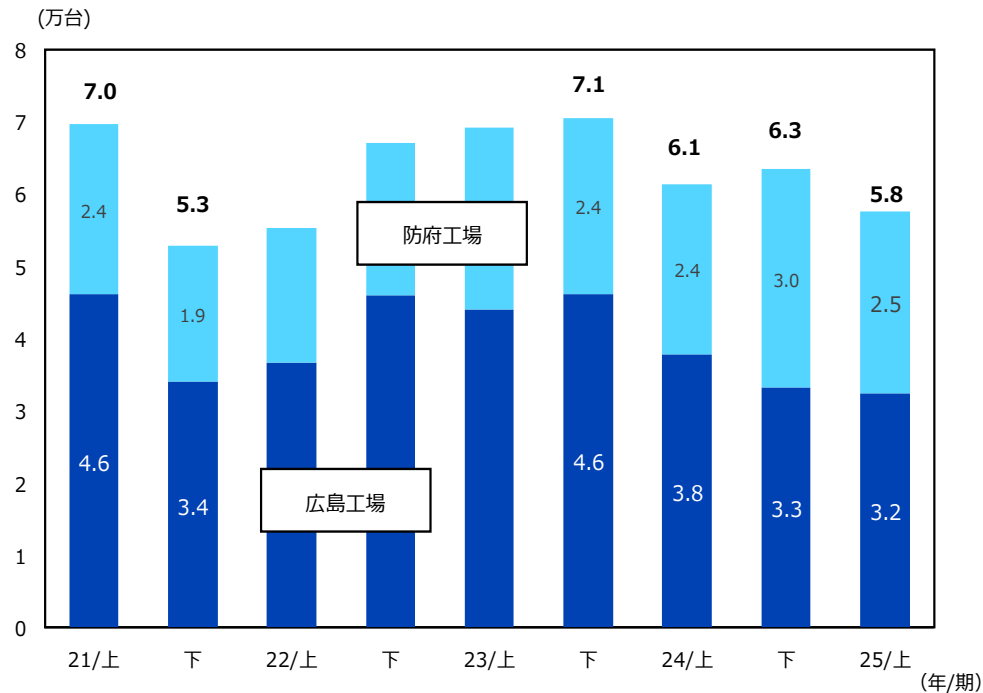


### 最近の動き（2025年上期）



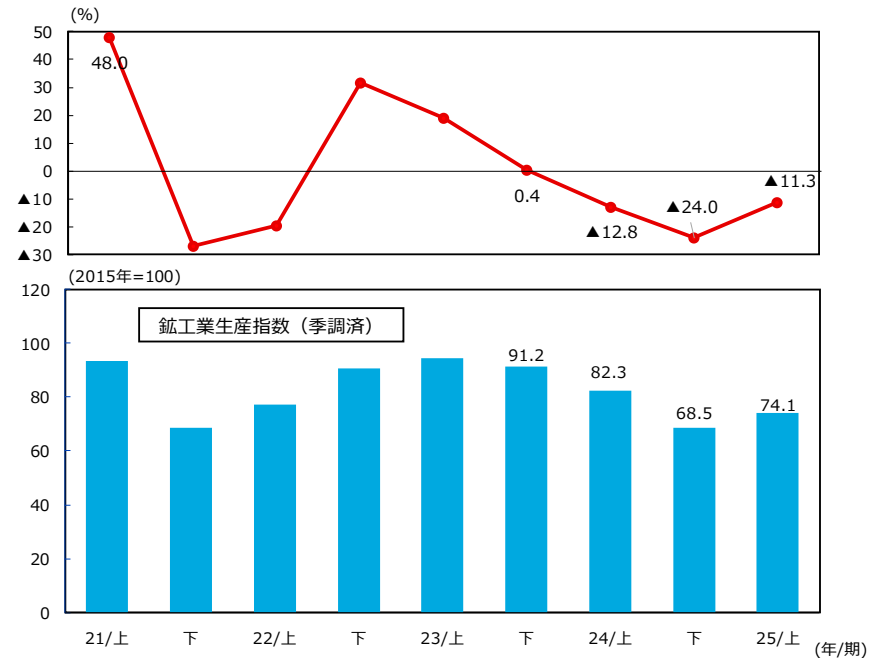
- 2025年上期（1～5月）のマツダの国内生産台数は5.8万台／月（前年同期比▲4.6%）と、輸出向けの主力車種「CX-5」、「CX-30」の低迷などから前年を下回り、県内の自動車部品メーカーの生産も低調に推移した。
- 因みに、広島県の自動車部門の鋳工業生産指数（2025年1～5月）は、74.1（前年同期比▲11.3%）と前年割れが続いた。
- 業績は、自動車メーカーの国内生産の低調に加えて、人件費をはじめとしたコスト負担の増加などもあり、多くの部品メーカーが減収減益基調で推移した。

#### マツダの国内生産台数（月平均）の推移



(注) 2025年上期は1～5月  
(資料) マツダ(株)資料より当部作成

#### 広島県の自動車部門の鋳工業生産指数の推移



(注) 2025年上期は1～5月  
(資料) 広島県資料より当部作成

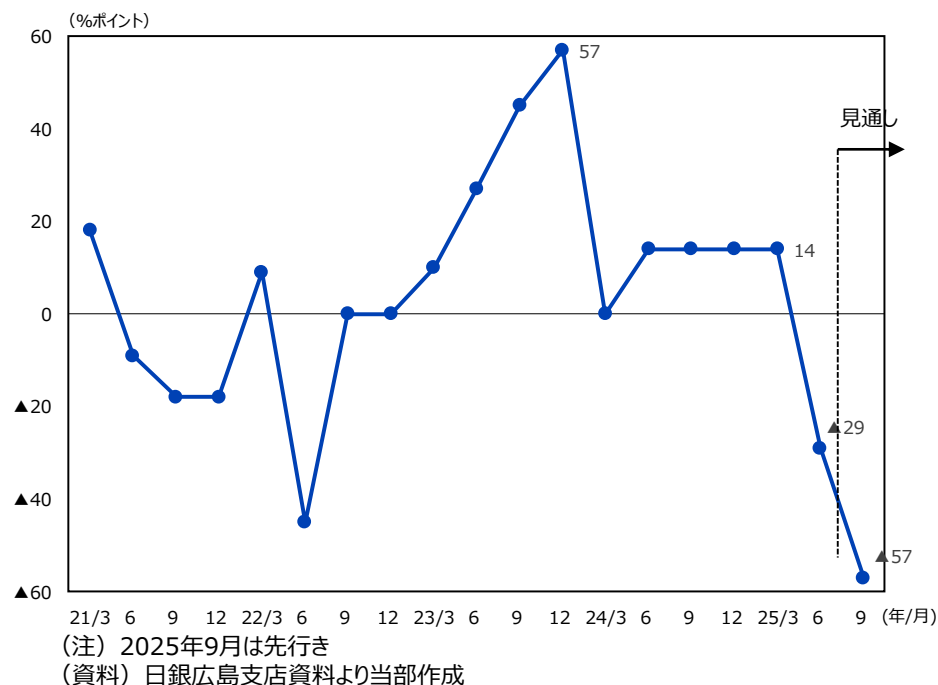
## 2. 自動車部品（見通し）

### 今後の見通し（2025年下期）



- マツダの国内生産が当面弱含む公算が大きい中で、自動車部品メーカーの受注・生産もしばらくは低調に推移するとみられる。
- 日銀短観6月調査によれば、広島県の自動車関連企業の業況判断DIは▲29%ポイント（前回調査比▲15ポイント）、先行きは▲57%ポイントと急速に悪化しており、自動車生産の先行き不透明感が強まっていることが窺える。

広島県の自動車の業況判断DIの推移



### 業界トピックス

- マツダは2025年3月、自動車の電動化への対応にかかる「ライトアセット戦略」を策定した。
- 2030年までを「電動化の黎明期」と捉え、米国の保護主義政策や主要市場の電動化進度の違いなど、不確実性を抱える外部環境を踏まえて既存資産の活用や協業の強化によりアセット（固定資産）を軽減し、投資を最小限に抑制する方針を示した。
- EV開発に関しては、トヨタグループなどとの協業を強化する方針であり、県内サプライヤーとの共創などに関しても今後協議が進むとみられる。

マツダのライトアセット戦略の概要

| 分野   | 内容                                                                                                                            |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 概要   | ✓ 既存資産の活用および連携の強化により、アセット（固定資産）を軽くし、 <b>投資を抑制（2兆円→1.5兆円）</b><br>✓ モデル開発スピードや生産効率を3倍まで向上                                       |
| EV   | ✓ 2030年の <b>EV比率目標を25%</b> （共同開発15～20万台、自社開発20万台）<br>✓ <b>トヨタグループとの協業を強化</b> 、既存サプライヤーと共創<br>✓ <b>EV専用工場は設けず、混流生産</b> で高効率を実現 |
| エンジン | ✓ <b>内燃機関のフロントランナー</b> のポジションを維持<br>✓ ディーゼルエンジンの研究開発を継続                                                                       |
| 電池   | ✓ <b>パナソニックとの協業を強化</b> し、投資額を抑制（0.75兆円→半分）                                                                                    |

（資料）マツダ(株)資料より当部作成

### 3. 造船

25  
上



25  
下

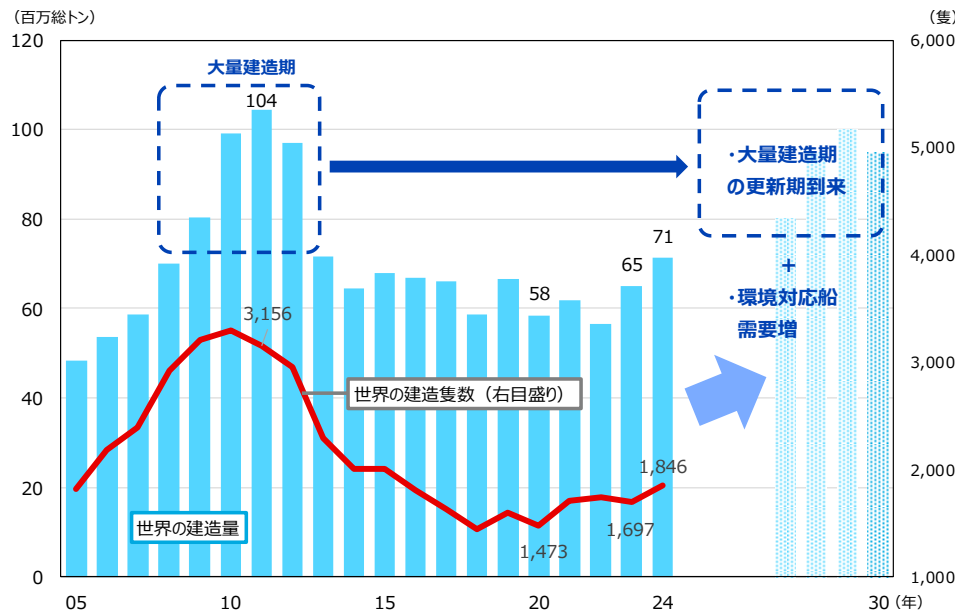


#### 最近の動き（2025年上期）



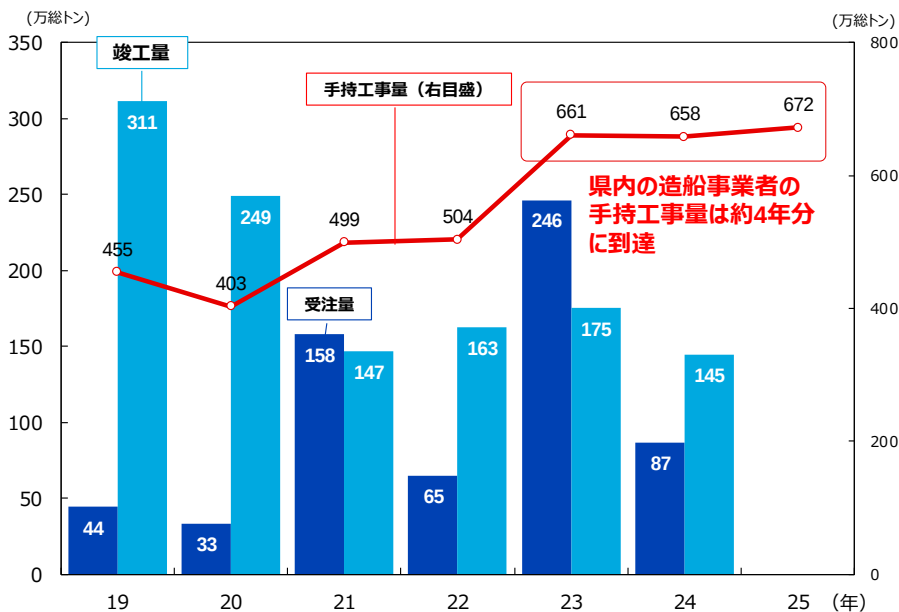
- 2024年の世界の商船建造量は71百万総トン（前年比+9.2%）に増加。足下においても、燃費性能の高い省エネ船（＝環境対応船）の需要の高まりや2010年前後の大量建造船舶の更新期到来を背景に堅調に推移している。
- こうした中で、2025年3月の広島県内造船事業者の手持工事量は672万総トンと安定操業の目安（約2年分）を大きく上回る4年に達しており、高採算案件を中心とした選別受注を行っている。
- 業績は、高水準の生産とコロナ禍以降に受注した高船価船の竣工、さらには為替の円安基調が加わって、総じて堅調に推移した。

#### 世界の商船建造量の推移



(資料) Clarksons Researchより当部作成

#### 広島県の受注・建造・手持工事量の推移



(注) 手持工事量は各年末、2025年は3月末  
(資料) 中国運輸局資料より当部作成

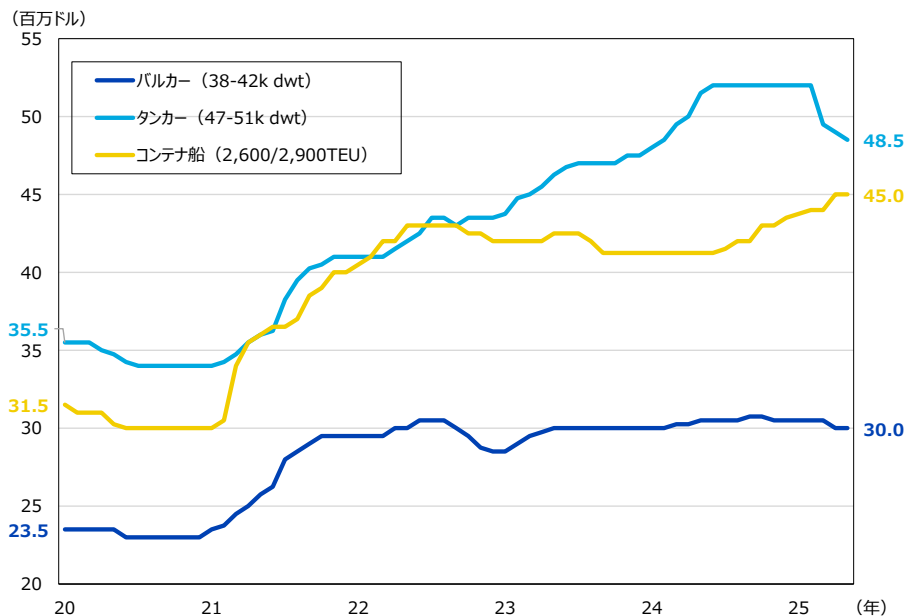
### 3. 造船（見通し）

#### 今後の見通し（2025年下期）



- 受注は、選別受注姿勢を継続する中で低調に推移するものの、生産は、高水準の手持工事を背景に高操業が続く見通し。
- 業績は、高船価船の竣工に加え、為替が円安水準で推移していることから、好調を維持するとみられる。

#### 新造船価（受注船価）の推移



（注）直近は2025年5月

（資料）Clarksons Researchより当部作成

#### 業界トピックス

##### 造船業復活に向け注目される米国・日本の政策動向

- 中国造船が世界の商船受注の約7割を占める（2024年）など圧倒的な存在感を持つ中で、日米共通の政策テーマとして「造船業の復活」の議論が盛り上がっている。
- 2025年6月には日本政府・与党が造船業復活に向けて政策パッケージの検討を始めたことが明らかになり、世界シェアの縮小が続く日本造船業の復活に向けてどのような具体策が打ち出されるのか注目される。

#### 造船業を巡る米国、日本政府の動向

| 国  | 米国、日本政府の動向                                                                                                                                                                                                                                                            |
|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 米国 | <ul style="list-style-type: none"><li>✓ 2025年4月、トランプ大統領が米国の造船業を復活させることを目的とした大統領令に署名</li><li>✓ ホワイトハウス内に<b>海事・産業能力局</b>を設置、米国の海事産業活性化に向けた<b>海事行動計画（MAP）の策定</b>等を検討</li></ul>                                                                                           |
| 日本 | <ul style="list-style-type: none"><li>✓ 2025年5月、米国による追加関税措置への交渉材料として、造船分野の協力を進める「<b>日米造船黄金時代計画</b>」の策定を提案。</li><li>✓ 同年6月、政府・与党は国内の<b>造船業を復活させるための政策パッケージ</b>の検討を開始。<br/>[検討内容] <b>国が造船所を建造</b>し民間に貸与<br/>1兆円規模の投資に向け<b>官民で基金創設</b><br/>デジタル技術導入・外国人材受入支援 等</li></ul> |

（資料）各種資料より当部作成

## 4. 一般機械

25  
上



25  
下

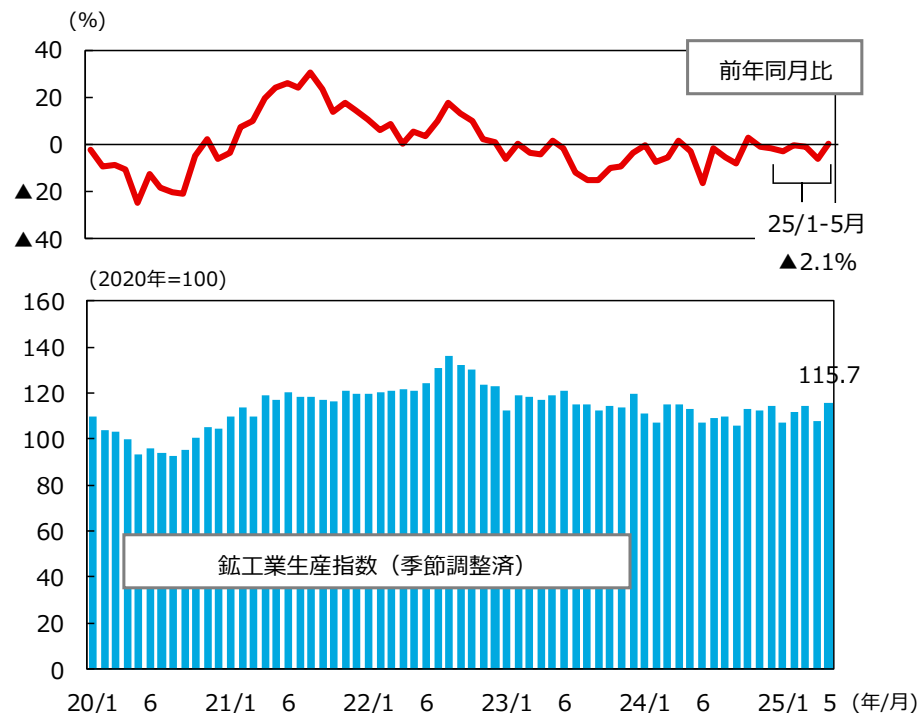


### 最近の動き（2025年上期）



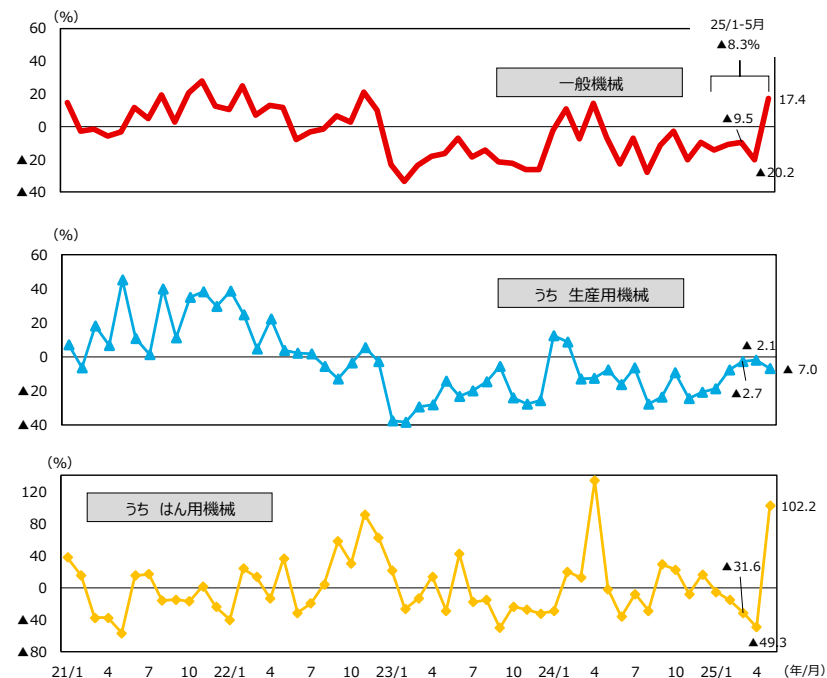
- 2025年上期（1～5月）の全国の一般機械（はん用・生産用・業務用機械）の鉱工業生産指数は前年同期比▲2.1%と、建設機械をはじめとした生産用機械の低調などから前年を下回った。国内向けは旺盛な省力化投資等を背景に底堅く推移したものの、輸出向けが米国関税政策を受けた海外経済の不透明感の高まり等を背景に弱含んだ。
- 広島県の一般機械の鉱工業生産指数は同▲8.3%と、建設機械・工作機械をはじめとした生産用機械の低迷などからマイナス基調が続いた。
- 業績は、生産の低迷に加えて、原材料や労務費の上昇を受け、総じて低水準で推移した。

全国の一般機械（はん用・生産・業務用機械）の  
鉱工業生産指数の推移



（資料）経済産業省資料より当部作成

広島県の一般機械・生産用機械・はん用機械の  
鉱工業生産指数の推移（前年同月比）



（資料）広島県資料より当部作成

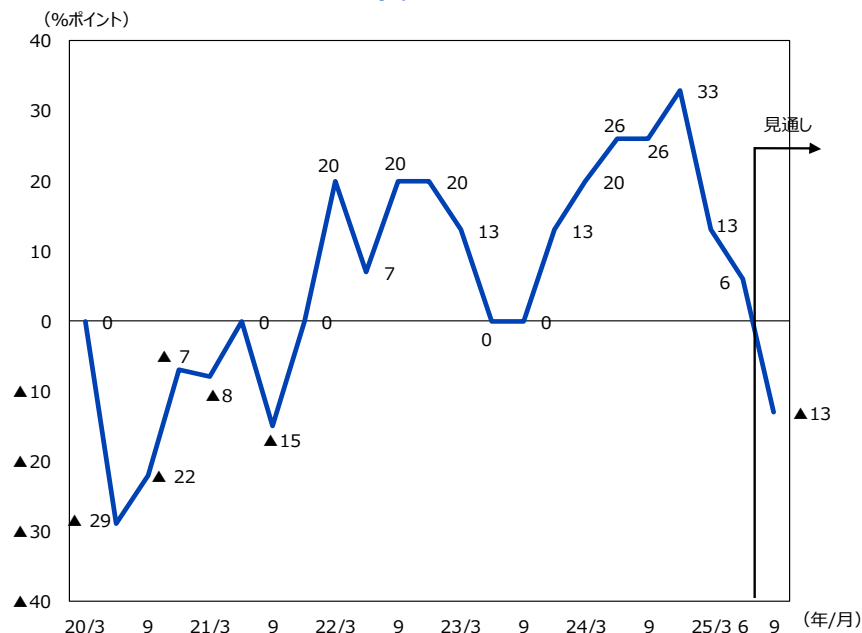
## 4. 一般機械（見通し）

### 今後の見通し（2025年下期）



- 需要および生産は、国内の旺盛な省力化投資等による下支えが期待される一方で、米国関税政策を受けた輸出の伸び悩みなどを受け、弱い動きが続く見通し。
- なお、日銀短観によれば、広島県の一般機械の業況判断DIは2025年6月には6%ポイントに低下、先行きは▲13%ポイントとさらなる悪化を見込んでいる。
- こうした中、県内関連企業では、コスト削減の強化や高付加価値製品の開発に取り組む動きがみられる。

広島県の一般機械の業況判断DIの推移



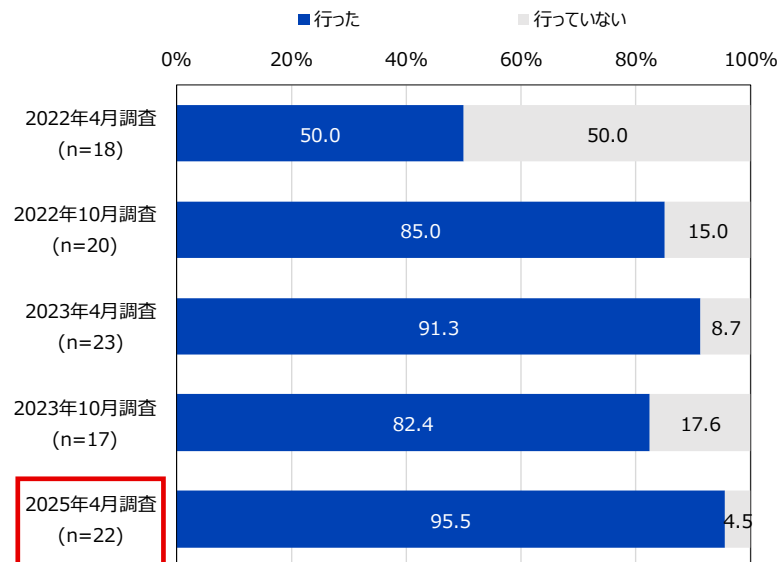
（資料）日銀広島支店資料より当部作成

### 業界トピックス

#### 広がる価格転嫁の動き

- 県内においても、資材価格・労務費の上昇を受けた製品価格への転嫁が進んでおり、2025年4月の当部調査では95.5%の企業が価格転嫁を「実施した」と回答している。
- ただし、コスト上昇分をすべてカバーできた企業は限られており、米国の関税強化など先行き不透明感が高まる中で、今後も継続的な取り組みが求められる。
- なお、半導体や航空、防衛、医療などの成長分野における新たな事業展開を模索する動きもみられる。

広島県内の一般機械の価格転嫁の実施状況



（資料）当部「経営者アンケート調査結果」

## 5. 電子部品・デバイス

25  
上



25  
下

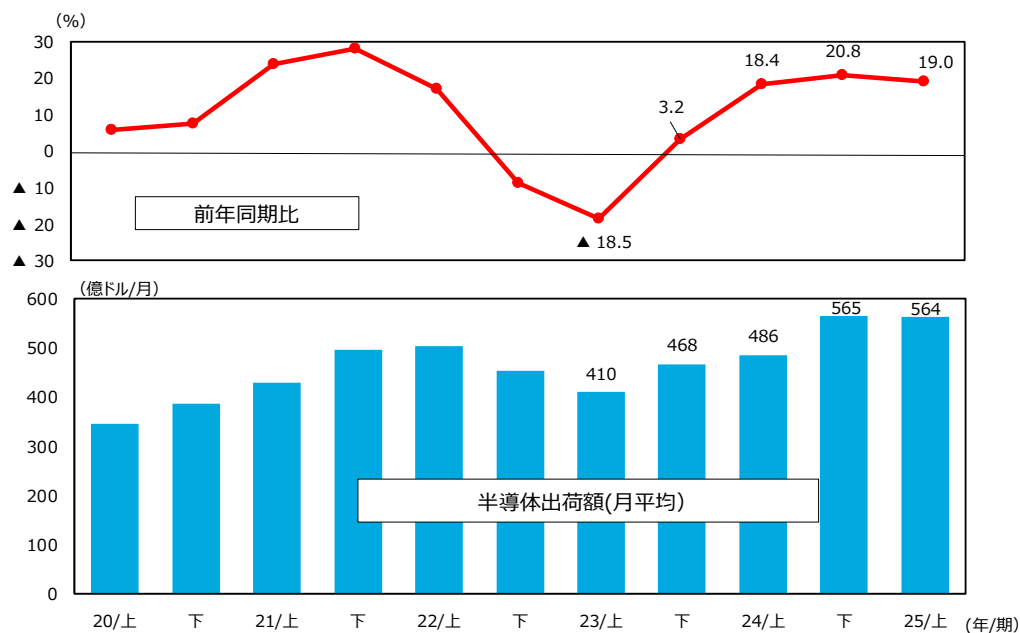


### 最近の動き（2025年上期）



- 需要は、自動車やスマートフォン向けは低調ながら、生成AI需要の拡大を受けたデータセンター投資がけん引して全体では堅調に推移。2025年上期（1～5月）の世界の半導体出荷額は前年同期比+19.0%と、AIやクラウド関連のメモリー・GPU（画像処理装置）を中心に2桁プラスが続いた。
- こうした旺盛な需要を背景に広島県内の関連事業者の生産も堅調。2025年上期（1～5月）の広島県の電子部品・デバイス工業の鉱工業生産指数は209.1（同+1.1%）と、高水準が続いている。

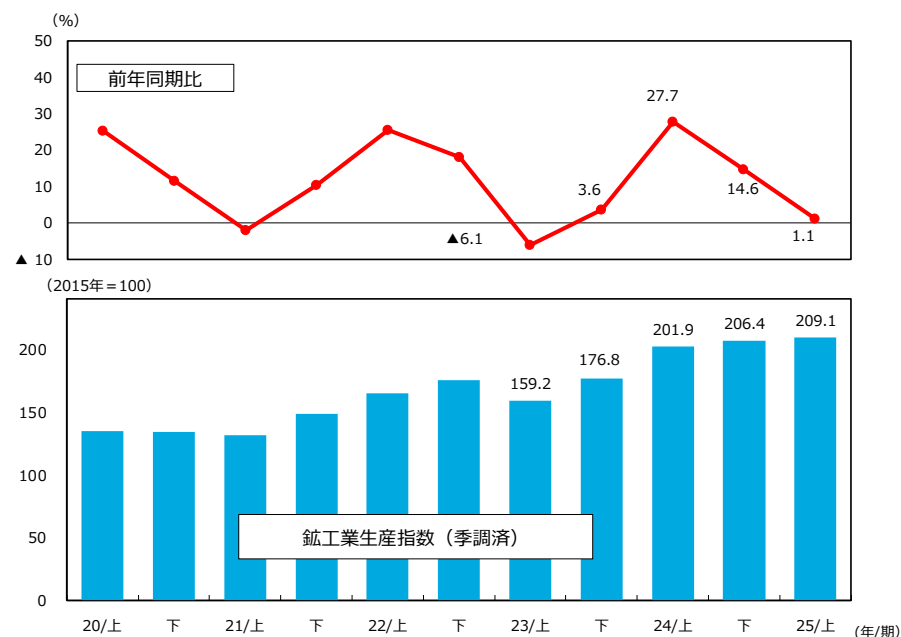
#### 世界の半導体出荷額の推移



(注) 2025年上期は1～5月

(資料) World Semiconductor Trade Statistics資料より当部作成

#### 広島県の電子部品・デバイス工業の鉱工業生産指数の推移



(注) 2025年上期は1～5月

(資料) 広島県資料より当部作成

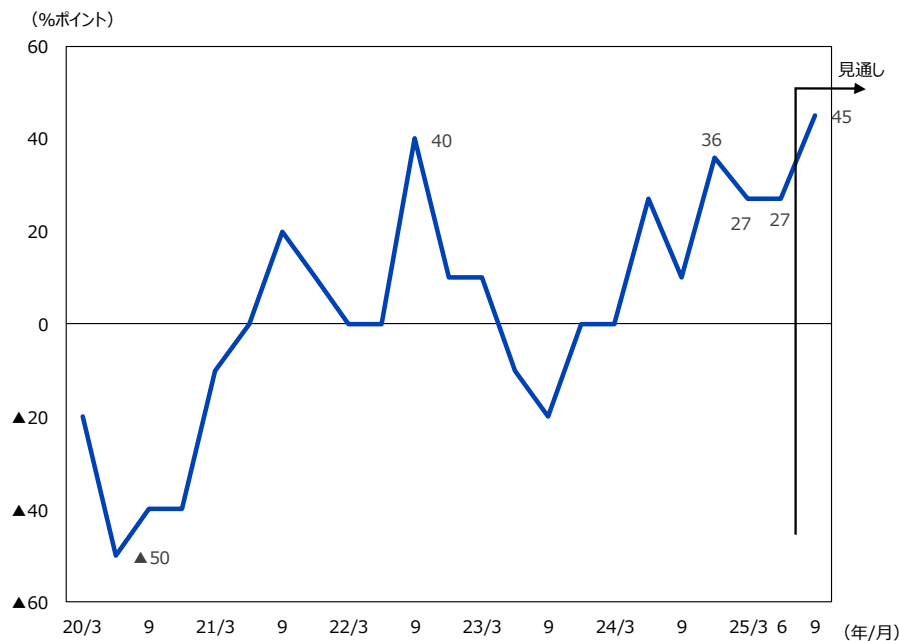
## 5. 電子部品・デバイス（見通し）

### 今後の見通し（2025年下期）



- 世界各国での半導体およびAI関連投資の進展を受け、需要はメモリ・ロジック半導体を中心にさらなる拡大が見込まれる。
- こうした好調な需要を背景に県内においても積極的な増産投資が進められており、生産は今後も拡大基調が続く見通し。
- 因みに、日銀短観6月調査によれば、広島県の電気機械（電子部品・デバイスを含む）製造業の業況判断DIは27%ポイントと高水準にあり、先行き（45%ポイント）は一段の上昇を見込んでいる。

広島県の電気機械の業況判断DIの推移



（資料）日銀広島支店資料より当部作成

### 業界トピックス

#### 積極投資が進められるマイクロンメモリジャパン広島工場

- マイクロンメモリジャパン広島工場（東広島市）では、最先端半導体の製造に不可欠な極端紫外線（EUV）露光装置を2025年中に導入し、世界最先端のメモリ半導体を2025年12月頃から出荷を始める計画となっている。
- 一連の設備整備にかかる投資額は約5,000億円で、うち1,670億円は政府の助成を得ることになっており、当事業所の生産拡大だけでなく、地域関連企業への波及効果も期待される。

マイクロンメモリジャパン広島工場における生産設備整備計画

|            |                                               |
|------------|-----------------------------------------------|
| 主要製品       | 世界最先端メモリ半導体（DRAM）                             |
| 生産能力       | 4万枚／月                                         |
| 投資着手       | 2023年10月                                      |
| 初回出荷       | 2025年12月～2026年2月                              |
| 製品納入先      | 自動車、医療機器、インフラ、データセンター、5G、セキュリティ等<br>※生成AIにも活用 |
| 設備投資額      | 約5,000億円                                      |
| 政府による最大助成額 | 1,670億円                                       |

（資料）経済産業省資料より当部作成

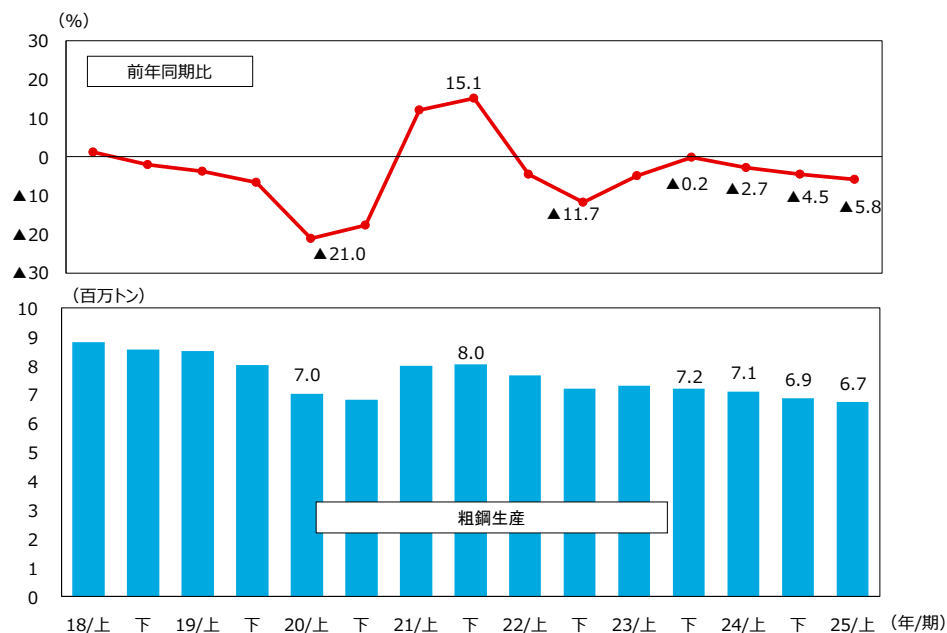
## 6. 鉄鋼



### 最近の動き（2025年上期）

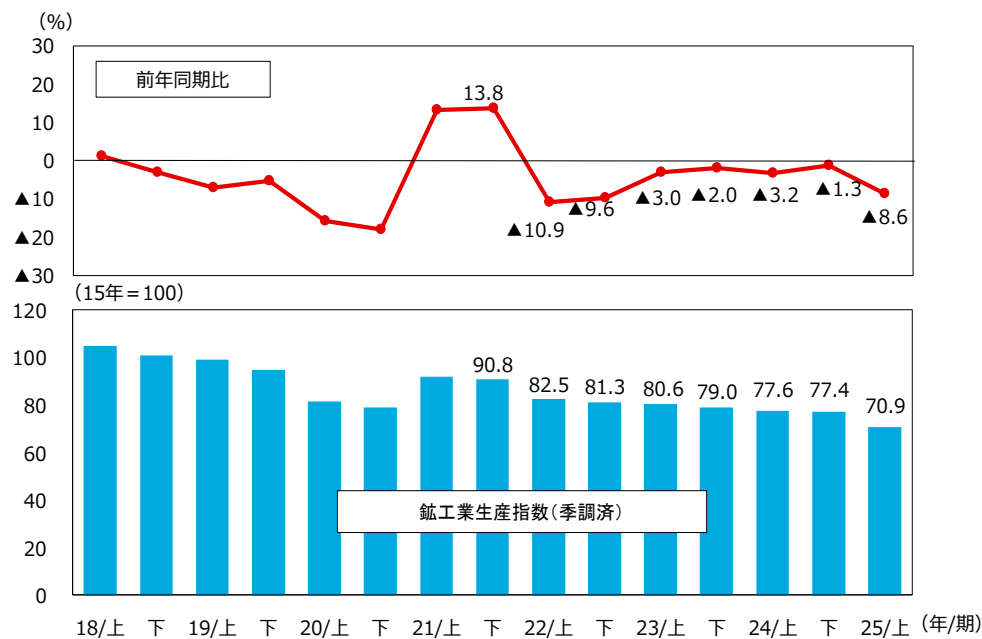
- 需要は、内需が建設や自動車向けの低迷から、外需も過剰生産が続く中国メーカーの輸出攻勢の影響を受けて、それぞれ低調に推移した。
- こうした需要の低迷を受けて全国の粗鋼生産量は減少基調を辿っており、2025年上期（1～4月）は6.7百万トン/月（前年同期比▲5.8%）と引き続き前年割れとなった。
- 広島県の鉄鋼業の生産も全国同様低調に推移しており、2025年上期（1～5月）の鉱工業生産指数は70.9（同▲8.6%）と、7期連続のマイナスとなった。
- 業績は、需要の低迷や国内外の市況悪化（次ページ左図）を受けて、減収減益となった。

#### 全国の粗鋼生産量（月平均）の推移



(注) 2025年上期は1～4月  
(資料) 日本鉄鋼連盟資料より当部作成

#### 広島県の鉄鋼業の鉱工業生産指数の推移



(注) 2025年上期は1～5月  
(資料) 広島県資料より当部作成

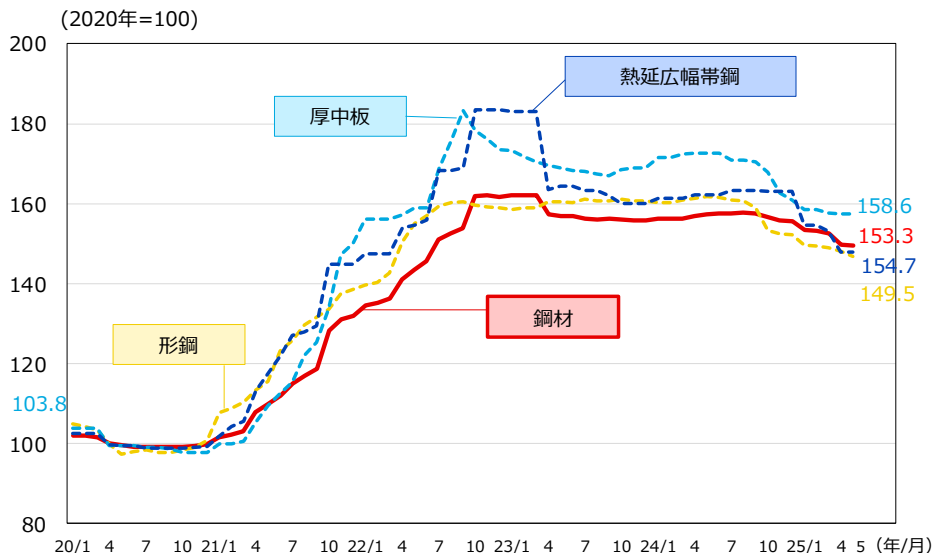
## 6. 鉄鋼（見通し）

### 今後の見通し（2025年下期）



- 内需は、人手不足を背景に建設向けの低迷が続くほか、自動車向けも米国関税政策を受けた国内生産の減少に伴いさらに弱含むとみられ、低調な推移が続くと予想される。
- 外需も、中国メーカーの過剰生産・輸出増加のスタンスが維持される中で、ASEANなどアジア向けを中心に低迷する公算が大きい。
- 生産は、こうした需要の弱さに加えて、JFEスチール西日本製鉄所において生産能力縮小の動きが本格化することもあり、減少基調が続く見通し。

### 国内企業物価指数（鉄鋼製品）の推移



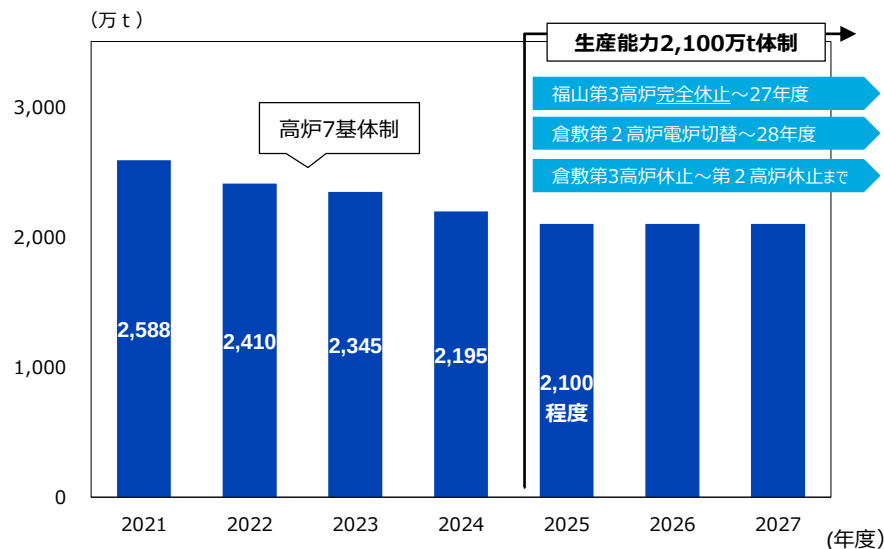
(資料) 日本銀行資料より当部作成

### 業界トピックス

#### 注目されるJFEスチール西日本製鉄所の取り組み

- JFEスチールは、2025年5月に発表した中期経営計画において、国内外の事業環境悪化を踏まえ、収益性向上に向けた生産能力の縮小と高付加価値製品の強化に取り組む方針を示した。
- 具体的には、高炉の休止や高付加価値品の製造設備への投資を予定しており、今後の取り組みが注目される。
  - (福山地区) 第4高炉…2027年度までに完全休止  
設備投資…超ハイテン板製造設備建設700億円
  - (倉敷地区) 第2高炉…電炉へ転換のため完全休止  
設備投資…電炉転換3,294億円  
高級電磁版製造能力向上460億円

### JFEスチールの粗鋼生産の推移と計画



(資料) JFEホールディングス公表資料より当部作成

# 7. 大型小売

25  
上



25  
下

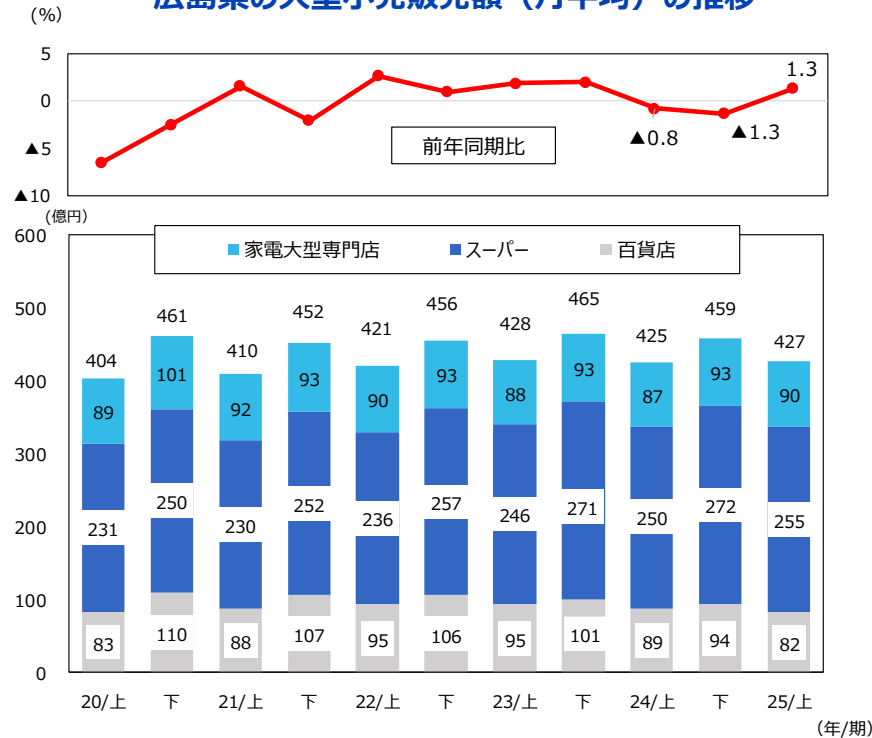


## 最近の動き（2025年上期）

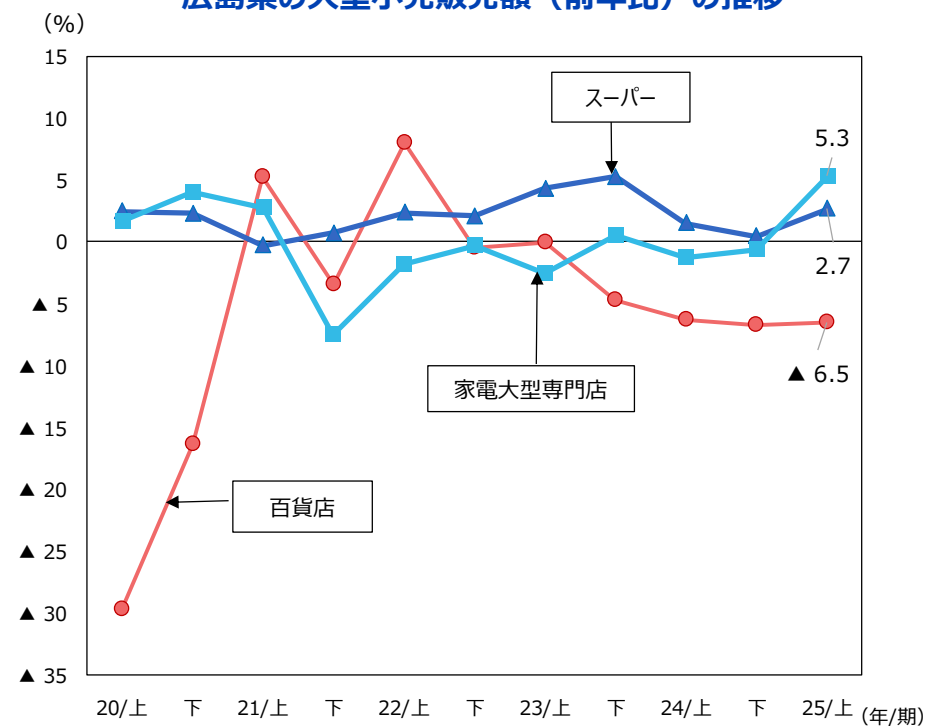


- 広島県の2025年上期（1～5月）の大型小売販売額は427億円/月（前年同期比+1.3%）と、小幅ながら前年を上回った。
- スーパー販売額（同+2.7%）は、客数は減少したものの、幅広い商品群で価格が上昇したことから、前年を上回った。
- 百貨店販売額（同▲6.5%）は、春先に一部の海外ラグジュアリー商品の価格改定に伴う駆け込み需要が発生したものの、主力の衣料品の不振が続き、前年を下回った。
- 家電大型専門店販売額（同+5.3%）は、省エネタイプのエアコン等の季節家電のほか、2025年10月のWindows10のサポート終了に向けた買い替え需要の発生によりパソコンの売上が伸長したこと等から、前年を上回った。

広島県の大型小売販売額（月平均）の推移



広島県の大型小売販売額（前年比）の推移

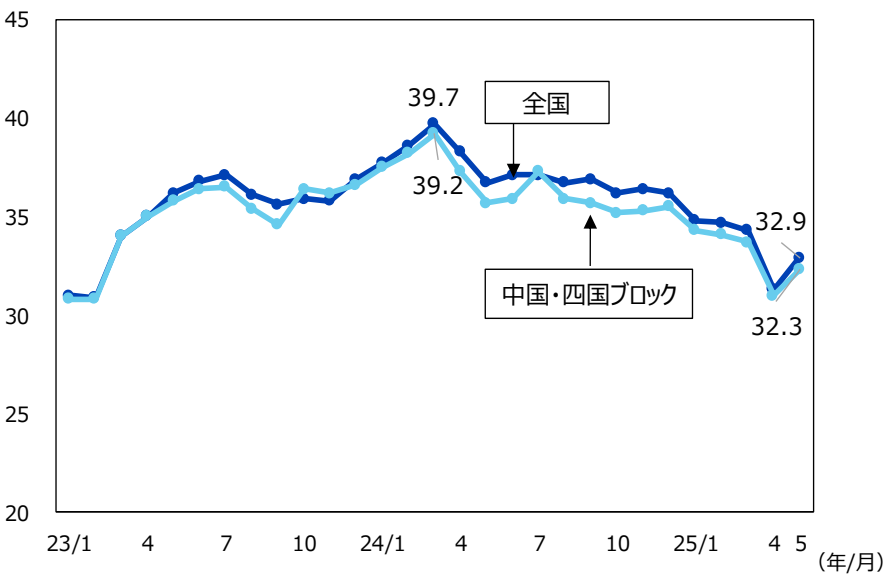


# 7. 大型小売（見通し）

## 今後の見通し（2025年下期）

- 大型小売は、賃上げ効果が期待される一方で、物価上昇が続く中で消費マインドの目に見えた改善は見込み難く、全体として伸び悩む見通し。
- スーパーは、飲食料品を中心に底堅く推移するとみられるが、物価上昇の長期化に伴う消費者の節約意識の高まりが懸念される。
- 百貨店は、海外ラグジュアリー品や美術・宝飾品は堅調な動きが期待できるものの、衣料品等の回復は期待し難く、低調が続く見通し。
- 家電大型専門店は、パソコンやテレビ、冷蔵庫等の買い替え需要が見込まれることから、底堅く推移する見通し。

消費者態度指数の推移



（資料）内閣府「消費動向調査」より当部作成

## 業界トピックス

### 続く物価上昇

- 2025年6月の広島市の消費者物価指数（総合：2020年＝100）は111.7（前年同月比＋3.2%）と上昇した。
- 主な費目では、食料が同＋7.0%と最も高い伸びをみせ、光熱・水道（同＋6.6%）、被服・履物（同＋4.7%）が続いた。
- 品目別には、うるち米（同＋122.4%）が2倍以上に上昇。チョコレート（同＋23.2%）、鶏卵（同＋12.3%）も2桁の上昇となっている。

広島市の消費者物価指数と小売価格

| (2020年＝100、%) |             |             |     | (円、%)                  |             |             |       |
|---------------|-------------|-------------|-----|------------------------|-------------|-------------|-------|
| 費目            | 2024年<br>6月 | 2025年<br>6月 | 前年比 | 品目                     | 2024年<br>6月 | 2025年<br>6月 | 前年比   |
| 総合            | 108.2       | 111.7       | 3.2 | うるち米<br>(コシヒカリ5kg)     | 2,454       | 5,458       | 122.4 |
| 食料            | 117.8       | 126.0       | 7.0 | 鶏卵<br>(Mサイズ10個)        | 285         | 320         | 12.3  |
| 光熱・水道         | 112.6       | 116.0       | 6.6 | みそ<br>(米みそ750g)        | 424         | 461         | 8.7   |
| 被服・履物         | 106.9       | 111.9       | 4.7 | チョコレート<br>(板チョコ50-55g) | 276         | 340         | 23.2  |
| 交通・通信         | 96.0        | 99.2        | 3.7 | トイレトーパー                | 804         | 838         | 4.2   |
| 保健・医療         | 100.8       | 102.4       | 2.7 | ワイシャツ                  | 2,068       | 1,986       | ▲4.0  |
| 教養・娯楽         | 111.2       | 113.6       | 2.2 | ルームエアコン                | 94,520      | 103,600     | 9.6   |
| 家具・家事用品       | 118.9       | 120.1       | 1.0 | 冷蔵庫                    | 328,850     | 314,840     | ▲4.3  |

（資料）総務省「消費者物価指数」、「小売物価統計調査」より当部作成

## 8. ホテル

25  
上



25  
下

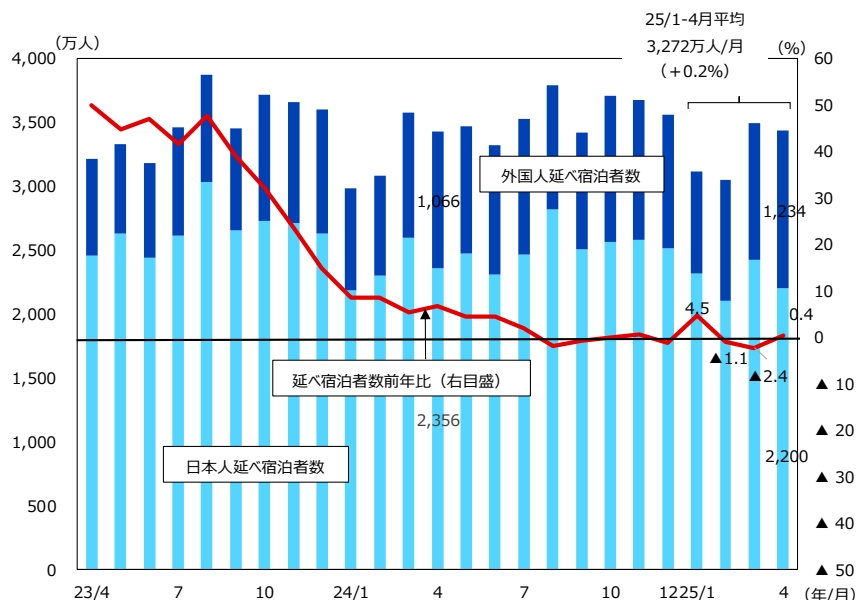


### 最近の動き（2025年上期）



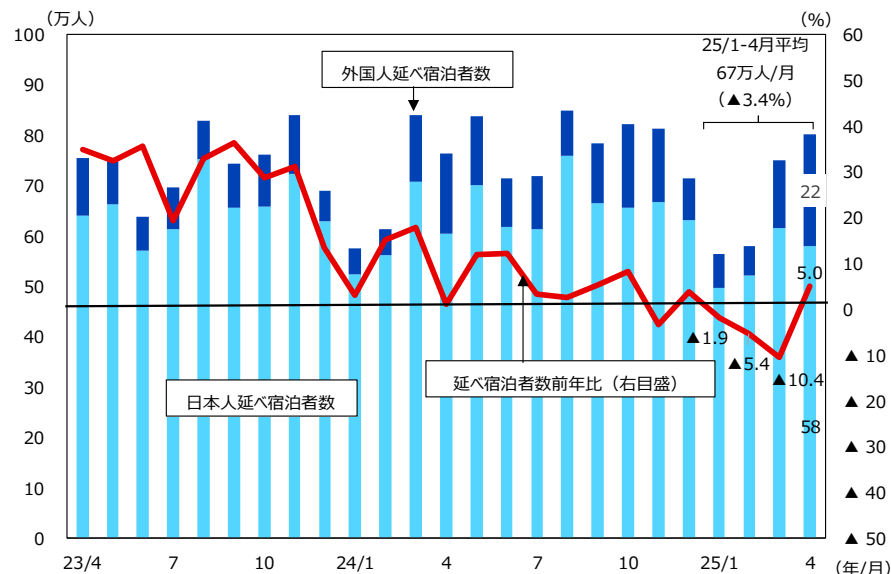
- 2025年上期（1～4月）の全国の延べ宿泊者数は3,272万人/月（前年同期比+0.2%）と、ほぼ前年並み。日本人（2,259万人/月、同▲4.1%）の減少を外国人（1,013万人/月、同+11.4%）の増加が補った。
- 広島県の延べ宿泊者数は、外国人（12万人/月、同+22.8%）は全国を上回る伸びをみせたものの、日本人（55万人/月、同▲7.7%）の落ち込みが大きく、全体では67万人/月（同▲3.4%）と前年を下回った。
- こうした中で、宿泊部門は、客室稼働率（次ページ左図）の上昇は限定的であったものの、客室単価の上昇により総じて堅調に推移した。
- 宴会・婚礼部門は、法人需要の増加により宴会は上向いたが、婚礼の低調が続き、全体では伸び悩んだ。
- 料飲部門は、宿泊客の利用に加えて、飲食料価格の上昇等に伴う単価引き上げが広がったこともあり、堅調に推移した。

全国のホテル延べ宿泊者数の推移



（資料）観光庁「宿泊旅行統計調査」より当部作成

広島県のホテル延べ宿泊者の推移



（資料）観光庁「宿泊旅行統計調査」より当部作成

## 8. ホテル（見通し）

### 今後の見通し（2025年下期）



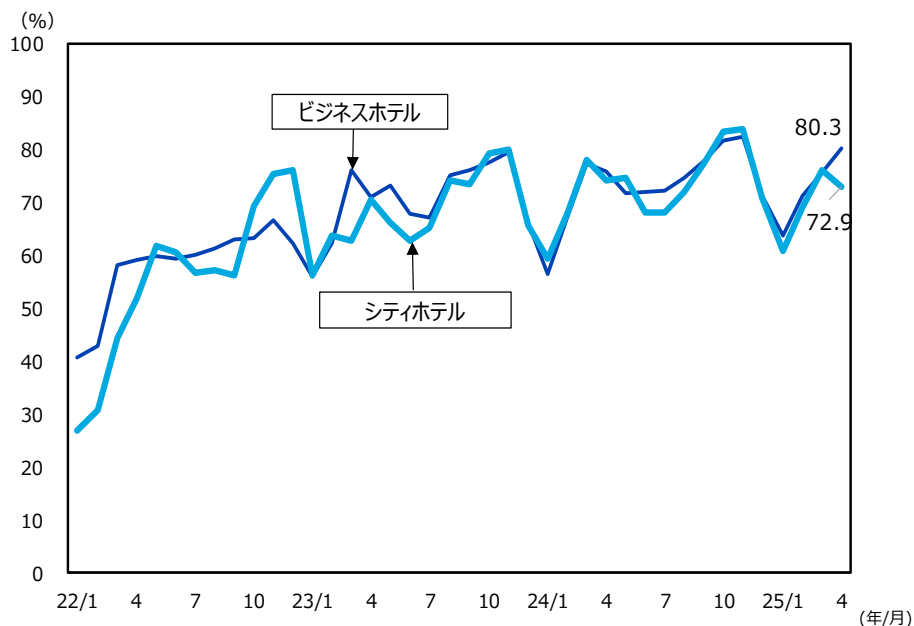
- 宿泊部門は、日本人は物価上昇やテレビ会議の普及を背景に伸び悩みが続くものの、外国人客の堅調から宿泊料金の上昇が続き、全体では堅調に推移する見込み。
- 宴会・婚礼部門は、法人需要の回復を受けて宴会では持ち直しの動きが続くが、婚礼は伸び悩みが続く見通し。
- 料飲部門は、外国人を中心とした宿泊客の利用に加えて、イベント開催等による地元客の誘客強化の取り組みもあり、底堅い推移が見込まれる。

### 業界トピックス

#### 上昇続く宿泊料金

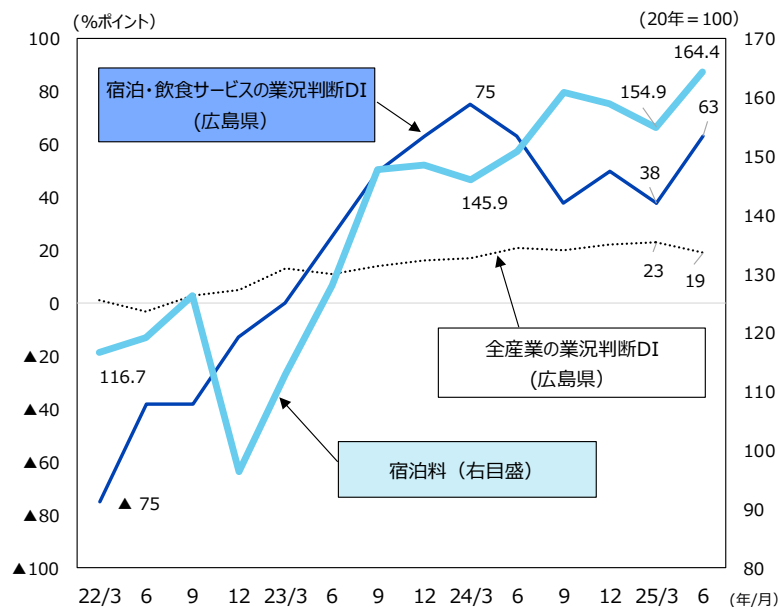
- インバウンド需要の拡大に加えて、原材料・エネルギー価格や人件費の価格転嫁の動きの中で、宿泊料金の上昇が続いている。
- 消費者物価指数ベースの宿泊料は2025年5月は164.4と、ここ3年で4割程度上昇しており、ホテルは良好な景況感が続いている。
- 因みに日銀短観によれば、広島県の宿泊・飲食サービスの業況判断DIは2年前より全産業を大幅に上回る水準で推移している。

#### 広島県内ホテルの客室稼働率の推移



（資料）観光庁「宿泊旅行統計調査」より当部作成

#### 宿泊料と宿泊・飲食サービスの業況判断DIの推移



（注）宿泊料は3ヵ月移動平均、直近は4、5月の平均

（資料）日本銀行広島支店「短観」、総務省「消費者物価指数」より当部作成

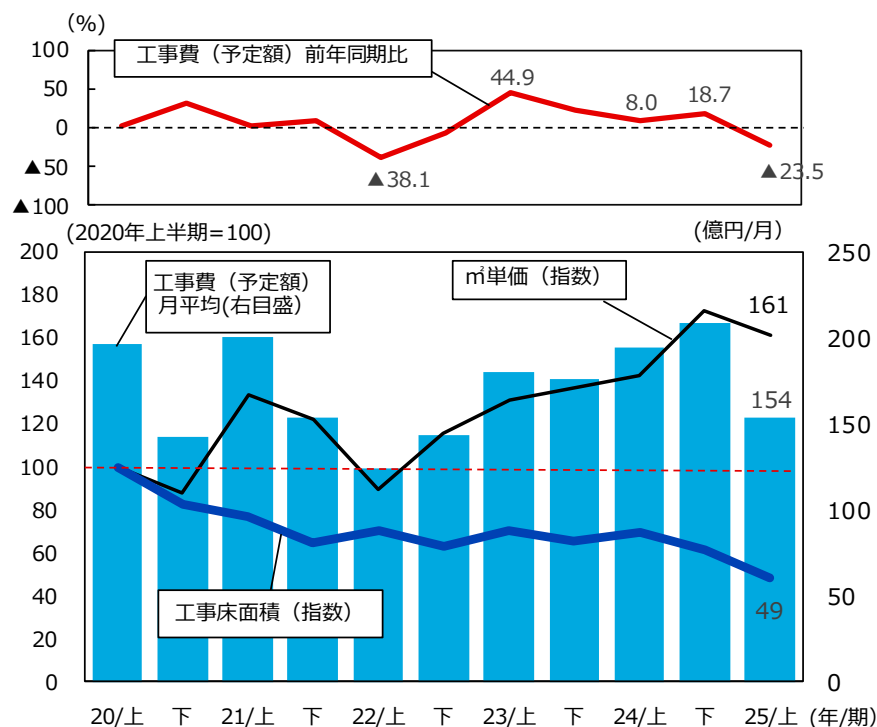


## 最近の動き（2025年上期）



- 2025年上期（1～5月）の広島県の非住宅着工工事費（予定額）は154億円/月（前年同期比▲23.5%）と、医療機関等の新設が相次いだ前年の反動もあり、大幅な前年割れとなった。
- 一方、公共工事請負金額（同）は1,273億円（同+4.8%）と、高水準のインフラ維持・修繕工事等を受けて前年比プラスとなった。
- 業績は、資材費・人件費の高止まりがマイナス材料であるものの、高水準の手持工事（次ページ左表）を背景として工事の選別や価格転嫁が進み、全体では良好な水準が続いた。

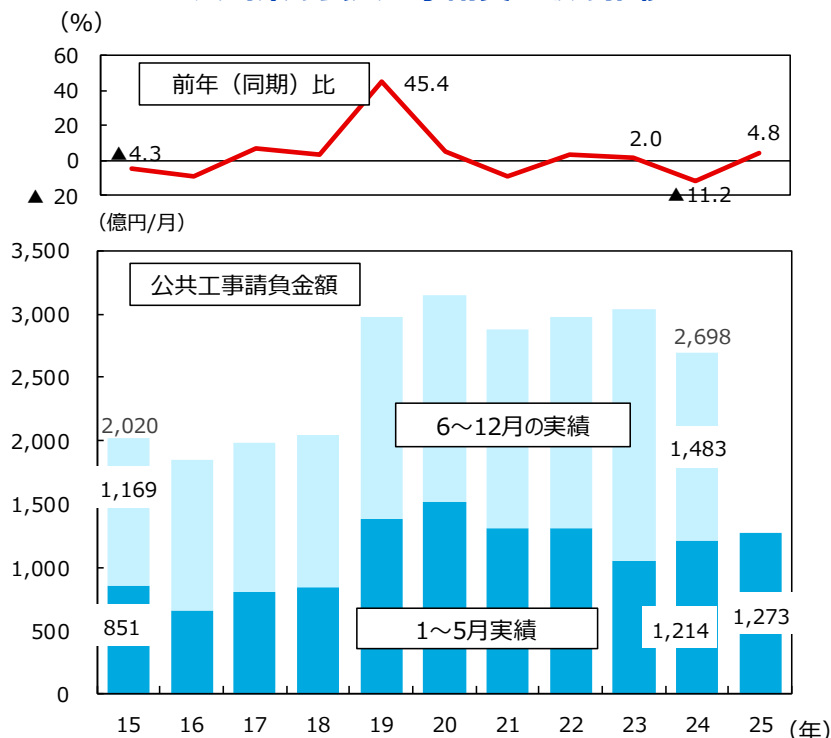
広島県の非住宅着工工事費（月平均）の推移



(注) 2025年上期は1～5月

(資料)国土交通省「建築着工統計」より当部作成

広島県の公共工事請負金額の推移



(資料)西日本建設業保証(株)「広島県の公共工事動向」より当部作成

## 9. 建築・土木（見通し）

### 今後の見通し（2025年下期）



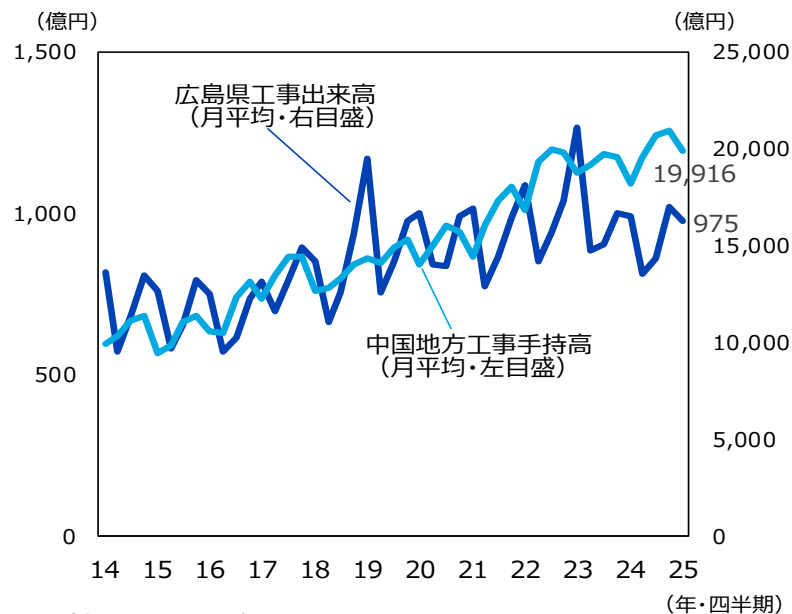
- 民間工事は、建設工事費の上昇を受けて床面積ベースでは伸び悩むものの、都市部での再開発事業の進展や工場等の設備投資の堅調を受けて、底堅く推移する公算が大きい。
- 公共工事は、災害復旧工事の剥落から弱含むものの、防災・減災対応や老朽化インフラの維持を中心に比較的高い水準での推移が見込まれる。
- 業績は、安定的な需要を背景とした採算重視の受注姿勢の中で、総じて堅調が続く公算が大きい。

### 業界トピックス

#### 深刻化する建設業の人手不足

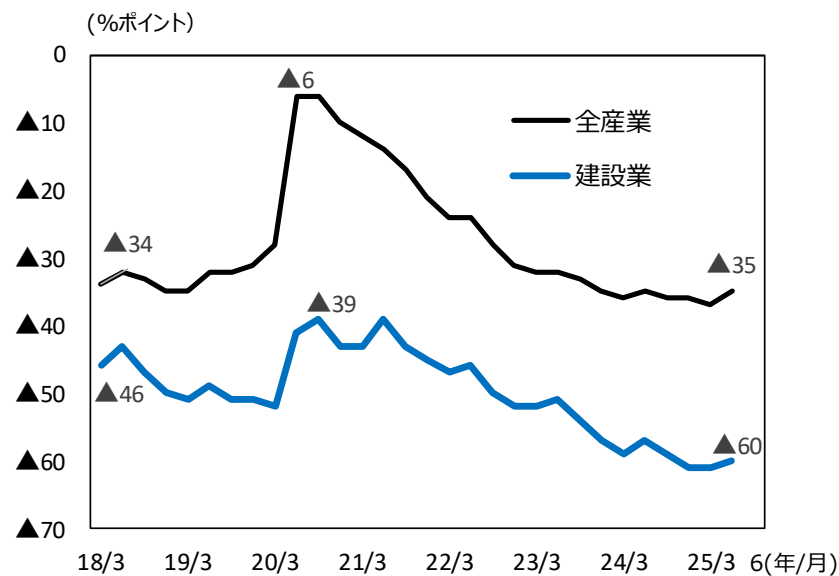
- 2024年4月の建設業の時間外労働上限規制の適用開始から1年が経過し、公共工事における「週休2日制適用工事」の推進など、建設作業員の長時間労働抑制に向けた取り組みが広がっている。
- 一方で、事業者の人手不足は深刻化しており、日銀短観6月調査における雇用人員判断DIは▲60%ポイントと、依然大幅な「不足超」が続いている。
- こうした中、首都圏や関西での再開発需要の高まりもあり、工事の延期を余儀なくされる事例も増加している。

#### 建設業の工事出来高・工事手持高の推移



（資料）国土交通省「建設総合統計」より当部作成

#### 全国の建設業の雇用人員判断DIの推移



（資料）日本銀行「企業短期経済観測調査」より当部作成

# 10. 住宅・マンション

25  
上



25  
下

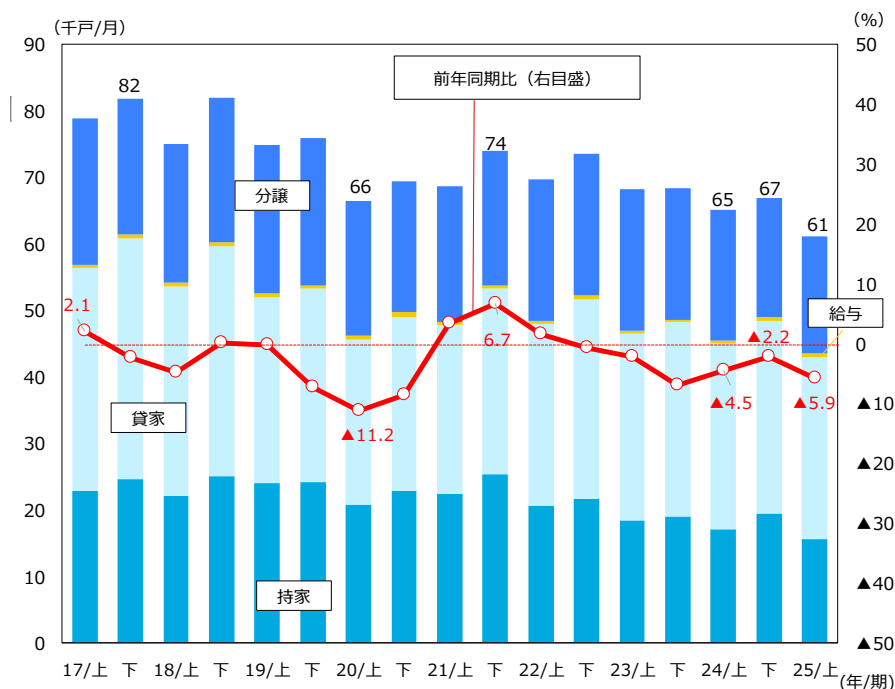


## 最近の動き（2025年上期）



- 全国の2025年上期（1～5月）の新設住宅着工戸数は61千戸/月（前年同期比▲5.9%）と、6期連続の前年割れとなった。
- 広島県（同）の新設住宅着工戸数は1,396戸/月（前年同期比+13.1%）と、4月からの建築確認厳格化を受けた駆け込み需要に給与住宅（大手メーカーの大規模寮の建て替え）の一時的な増加が加わって前年を上回ったが、基調としては弱含みで推移している。
- 業績は、仕入地価や資材費、労務費等の上昇がマイナス材料となり、総じて低水準にとどまった。

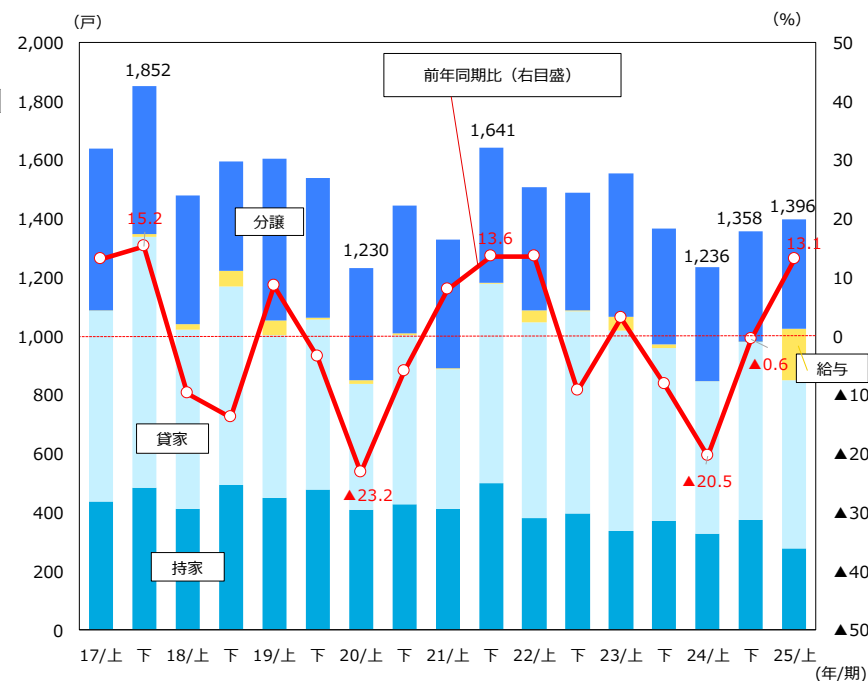
### 全国の新設住宅着工戸数（月平均）の推移



（注）2025年上期は1～5月

（資料）国土交通省「住宅着工統計」より当部作成

### 広島県の新設住宅着工戸数（月平均）の推移



（注）2025年上期は1～5月

（資料）国土交通省「住宅着工統計」より当部作成

# 10. 住宅・マンション（見通し）

## 今後の見通し（2025年下期）



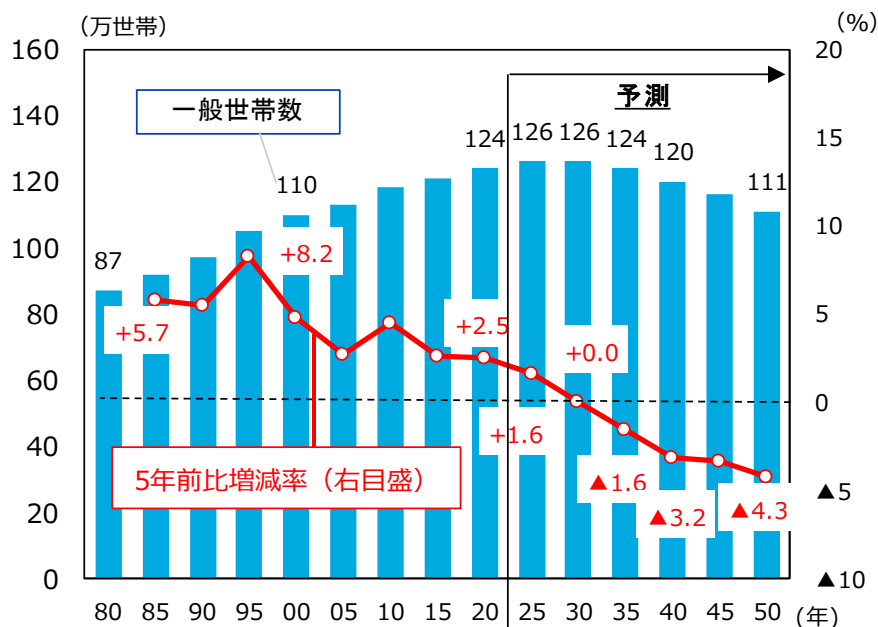
- 需要は、資材費や労務費、地価の上昇を受けて住宅価格が高騰する中で、主力の新築住宅（戸建て・建売）を中心に減少基調が続くとみられる。
- なお、これまで増加を続けてきた県内の世帯数も頭打ちに向かうなど、構造的な下押し圧力が徐々に加わる可能性もある。
- このため、業績は総じて低水準が続く公算が大きく、リフォーム・リノベーションなどの事業拡大に取り組む動きが広がるとみられる。

## 業界トピックス

### 高騰する広島市内のマンション価格

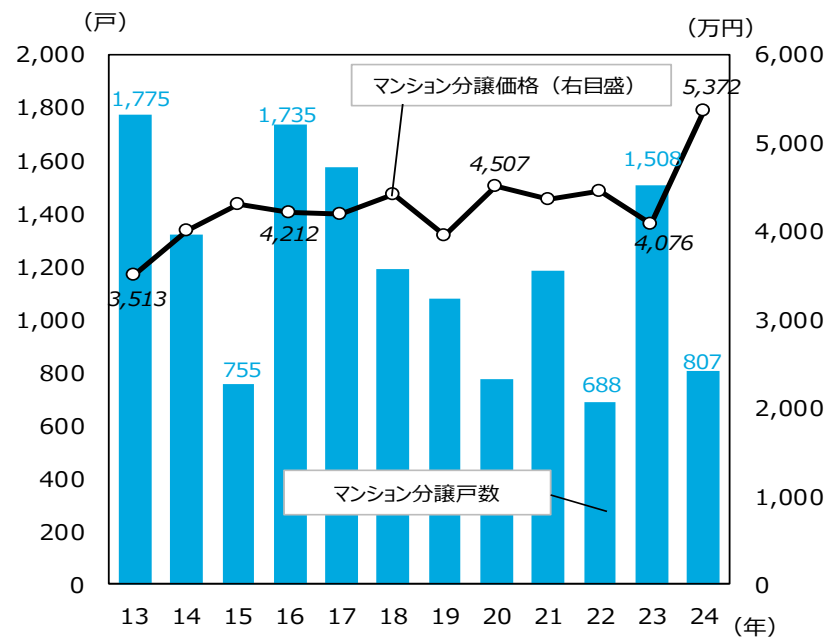
- 近年、4,000～4,500万円程度で推移してきた広島市内の分譲マンション価格は、2024年に5,372万円に上昇し、初めて5,000万円を上回った。
- 一方、分譲戸数は、年ごとの変動は大きいものの均してみれば減少基調にあり、2024年は807戸にとどまった。
- 価格の高騰に加えて建設業者の人手不足などから、今後のマンション供給は伸び悩むとみられる。

### 広島県の世帯数の推移と将来予測



（資料）国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数将来推計」より当部作成

### 広島市のマンション分譲戸数・分譲価格の推移



（資料）㈱不動産経済研究所「マンション市場動向」より当部作成

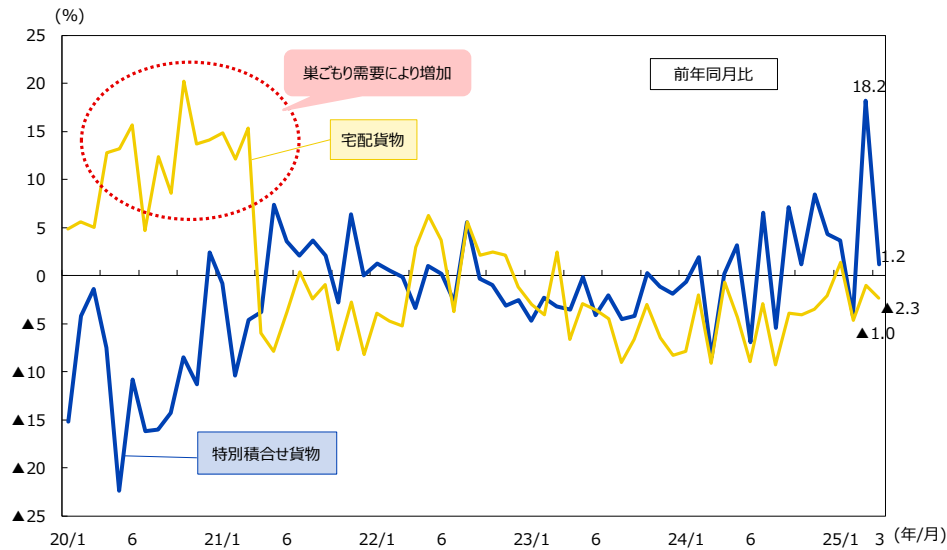


## 最近の動き（2025年上期）



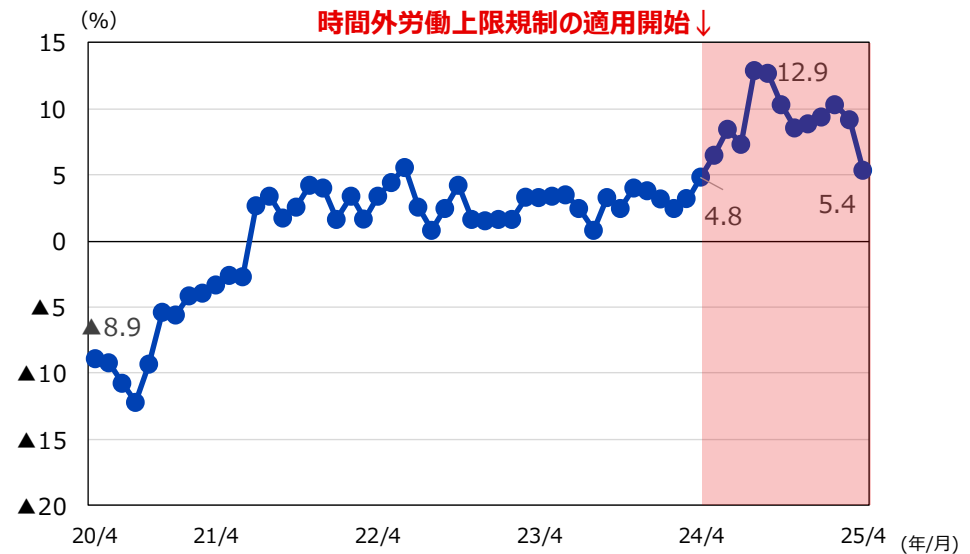
- 荷動きは、インターネット販売の伸び悩みから宅配貨物は前年割れが続いたものの、特別積み合わせ貨物は法人需要の持ち直しなどから上向いた。
- 運賃は、ドライバー不足の深刻化などもあって上昇基調にあり、トラックのスポット運賃指数（全日本トラック協会公表）は、2024年後半以降は前年同月比5～10%の高い伸びをみせている。
- 業績は、燃料価格の高止まりや人件費の上昇等の下押し圧力は強いものの、多くの企業で価格転嫁の取り組みが進められたことから、全体では改善に向かった。

### 中国地方の貨物輸送量（前年同月比）の推移



（注）特別積み合わせ貨物は主要事業者2社計、宅配便は主要事業者3社計  
（資料）中国運輸局資料より当部作成

### トラックのスポット運賃指数（前年同月比）の推移



（資料）全日本トラック協会「求荷求車情報ネットワーク（WebKIT）成約運賃指数  
について（令和7年4月）」より当部作成

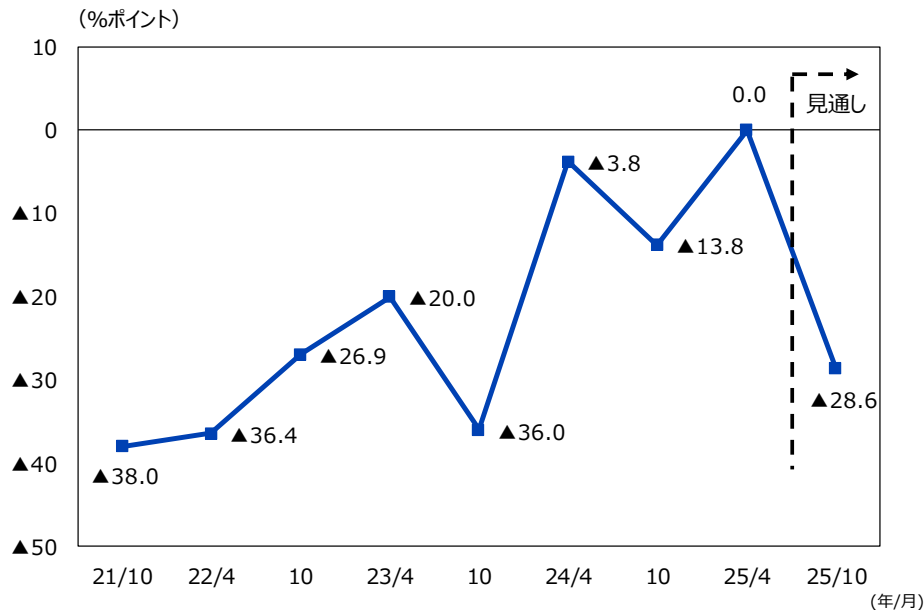
# 1 1. 陸運（見通し）

## 今後の見通し（2025年下期）



- 荷動きは、製造業の貨物が生産活動の低迷から低調に推移するとみられるほか、物価上昇を背景に小売販売も伸び悩む公算が大きく、全体としては弱含む見通し。
- 業績は、運賃引き上げに向けた取り組みは進展するものの、人件費・燃料費等のコスト増加に見合った早期の価格転嫁は難しく、改善には時間を要する見通し。
- なお、当部2025年4月調査によれば、県内陸運企業の経営状況DIは0.0%ポイントと大きく改善したものの、先行き10月は▲28.6%ポイントと大幅悪化が見込まれており、米国関税政策に伴う一段の荷動き低下が懸念されている。

県内陸運企業の経営状況DIの推移



## 業界トピックス

### 県内陸運企業の価格転嫁への取り組み状況

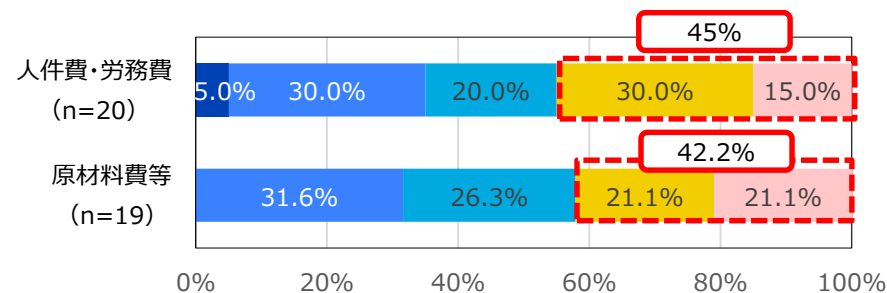
- 当部2025年4月調査によれば、県内の陸運企業の85.7%が価格転嫁を行ったと回答しており、ここ数年で価格転嫁が大きく進展している。
- ただし、コスト増のカバー率は、人件費・労務費、原材料費等ともに50%未満とする企業が4割超を占めており、コスト増加に見合った十分な価格転嫁は道半ばの状況にある。

県内陸運企業の価格転嫁の実施状況

|          | 2022年4月<br>(n=18) | 2023年4月<br>(n=20) | 2023年10月<br>(n=24) | 2025年4月<br>(n=28) |
|----------|-------------------|-------------------|--------------------|-------------------|
| 価格転嫁を行った | 45.8%             | 80%               | 79.2%              | 85.7%             |

県内陸運企業の価格転嫁のカバー率（2025年4月）

■ 100% ■ 80%～100%未満 ■ 50%～80%未満 ■ 30%～50%未満 ■ 30%未満





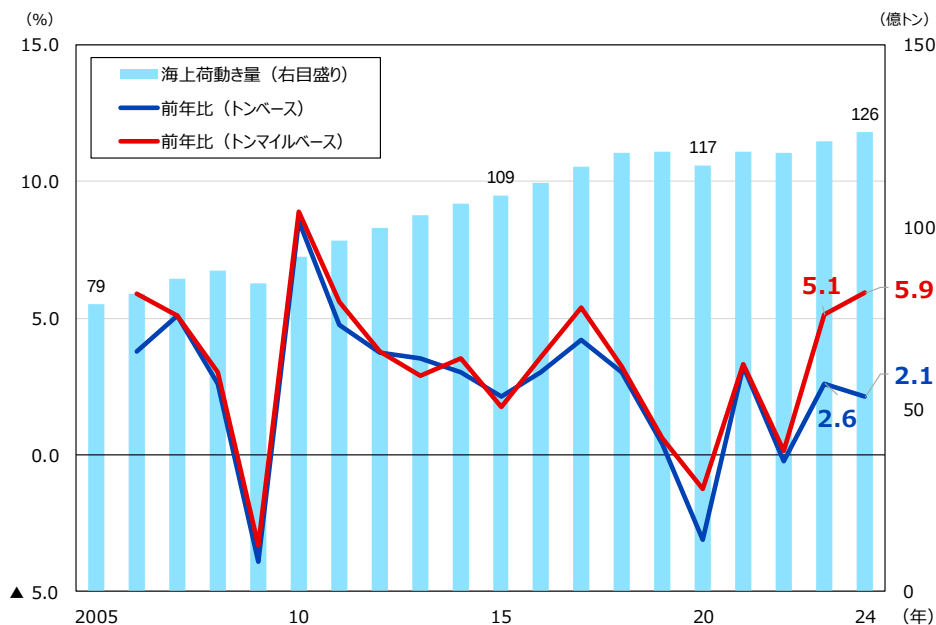
## 最近の動き（2025年上期）



- 世界の海上荷動き量（トンベース）は、世界経済の成長を背景に増加基調が続いている。特に2023年以降は、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化や中東情勢の緊迫化などによる代替・迂回輸送の増加を背景にトンマイルベース（※）の海上荷動き量の伸びが目立っている。
- 代表的な運賃市況の一つであるバルチック海運指数は、コロナ禍における経済再開時の供給制約から2021年に歴史的な高騰をみせた後大きく下落したが、2023年以降も地政学リスクの頻発を背景に総じて高水準を維持。2025年初めに米国関税政策への懸念から一時弱含んだが、3月以降は再び上向いている。
- 用船料も、こうした運賃の動きを受けてコロナ禍前を上回る水準で推移しており（次ページ左図）、外航船貸渡業者は好業績を続けた。

（※）トンマイル：輸送距離を勘案した実質的な輸送量を示す単位。貨物量（トン）×輸送距離（マイル）

### 世界の海上荷動き量の推移



（資料）Clarksons Researchより当部作成

### 運賃市況（バルチック海運指数）の推移



（資料）Clarksons Researchより当部作成

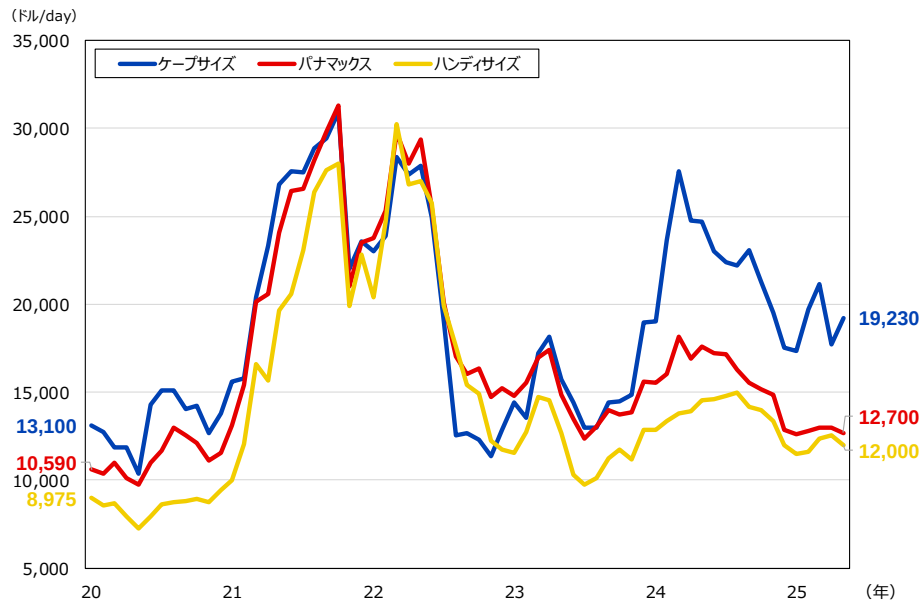
## 12. 海運（見通し）

### 今後の見通し（2025年下期）



- 用船料は、荷動きが底堅く推移する中、EUにおける新たな環境規制の開始（2025年1月）を受けて減速航海が更に進展するとみられ、良好な水準が維持される見通し。
- ただし、ウクライナ・中東情勢などの緊張が緩和された場合の輸送距離伸長要因の剥落や、米国関税政策に伴う荷動き量の減少などにより市況が低下に向かう可能性もある。
- 外航船貸渡業者の業績は、用船料が高水準で推移する中で、円安基調の追い風も受けて、好業績を維持する見通し。

ばら積み船の用船料の推移（船型別）



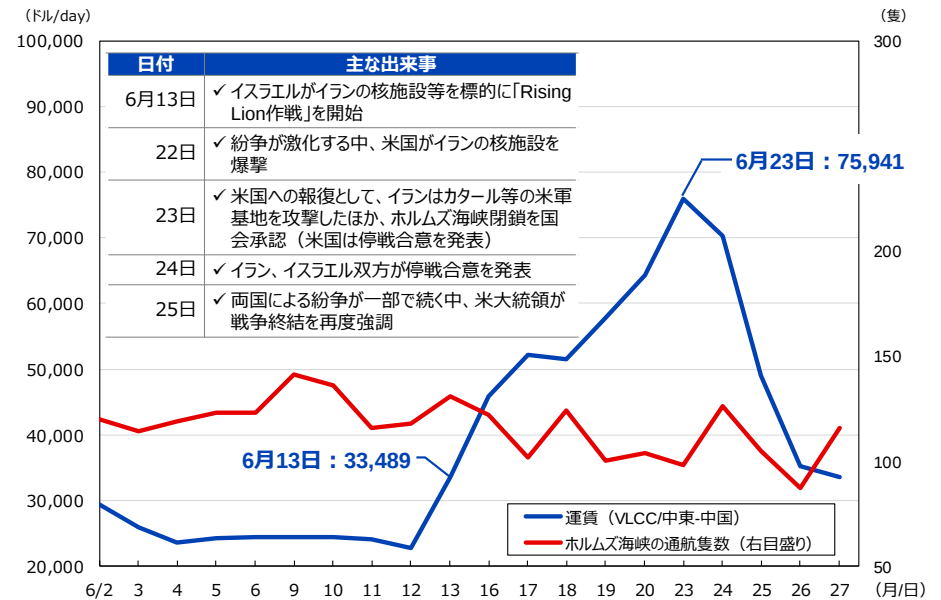
（注）直近は2025年5月  
（資料）Clarksons Researchより当部作成

### 業界トピックス

#### 注目されるタンカー運賃市況の動向

- 2025年6月、イスラエルは「核開発阻止」を目的としてイランに対する大規模な先制攻撃を実施。中東情勢の緊張が急激に高まり、前日まで2万ドル台で推移していた原油タンカー運賃は一時7万ドル台まで高騰した。
- その後、両国による停戦合意を受けて、運賃は正常化に向かっているが、7月初旬にはイランがホルムズ海峡閉鎖に向けて艦艇に機雷を搭載したとの報道もあり、予断を許さない状況が続いている。

タンカーの運賃の推移（2025年）



（注）日次ベース（休日を除くため、通航隻数の推移は必ずしも連続しない）  
（資料）Clarksons Researchより当部作成

未来を、ひろげる。

